



# 2026 SUSTAINABILITY REPORT

サステナビリティレポート

**DENKEN**

<https://www.dkn.co.jp>

# Contents

|                 |    |
|-----------------|----|
| 編集方針            | 01 |
| 経営方針・会社概要       | 02 |
| 会社沿革            | 03 |
| 2025 HIGHLIGHTS | 04 |
| トップメッセージ        | 05 |

## BUSINESS

### BUSINESS DETAILS

事業内容の紹介

|                 |    |
|-----------------|----|
| システム・ソリューション事業部 | 07 |
| エレクトロニクス事業部     |    |
| パーキング事業部        | 08 |
| ヘルスケア事業部        |    |
| GX事業部           | 09 |
| メタル・ソリューション事業部  |    |
| MAGNIX株式会社      | 10 |
| 株式会社AK電子        |    |
| 新電力おおいの株式会社     | 11 |
| 株式会社ぶんごおおのエナジー  |    |
| 株式会社アイ・エス・アイ    | 12 |
| 株式会社OAD-TEC     |    |

### MATERIALITY

当社の重要課題

|                |    |
|----------------|----|
| マテリアリティの選定プロセス | 13 |
| サステナビリティ経営     | 14 |

## ENVIRONMENT

### ENVIRONMENTAL ACTIVITIES

環境への取り組み

|               |    |
|---------------|----|
| 環境方針          | 15 |
| 気候変動への対応      | 16 |
| GX推進への取り組み    | 17 |
| 2025年度 環境負荷実績 | 19 |
| 環境活動実績        | 20 |

## SOCIAL

### QUALITY

品質への取り組み

|           |    |
|-----------|----|
| 品質定性評価    | 23 |
| 品質定量評価    | 24 |
| QMS維持管理対応 | 25 |

### CORPORATE CITIZENSHIP

社会貢献活動

|           |    |
|-----------|----|
| 社会貢献活動の紹介 | 26 |
|-----------|----|

### HUMAN CAPITAL

人的資本経営

|                   |    |
|-------------------|----|
| 人的資本経営            | 29 |
| 労働安全衛生への取り組み      | 30 |
| DDXによる人的資本と現場力の強化 | 31 |
| 教育への取り組み          | 32 |

## GOVERNANCE

### GOVERNANCE

コーポレートガバナンス

|                  |    |
|------------------|----|
| ガバナンス体制図         | 33 |
| 知的財産(無形資産)への取り組み | 34 |
| デンケンへの行動指針       | 35 |
| 情報セキュリティ活動レビュー   | 36 |
| BCPへの取り組み        | 37 |
| ステークホルダーの声       | 38 |
| 地域社会の声           | 39 |

## OTHER

|               |    |
|---------------|----|
| 社外からの評価・認定・宣言 | 40 |
| おわりに          |    |
| アンケート         |    |

# SUSTAINABILITY REPORT 2026

サステナビリティレポート発行にあたって

### 編集方針

株式会社デンケンサステナビリティレポート2026は、  
当社の持続可能(サステナブル)な社会実現に向けた取り組みを  
ステークホルダーの皆様へ報告する目的で作成しております。

### 報告対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日

### 報告対象事業所

#### 由布市

本 社 工 場：システム・ソリューション事業部、GX事業部、パーキング事業部  
高 崎 工 場：GX事業部  
鬼 崎 工 場：メタル・ソリューション事業部

#### 杵築市

守 江 工 場：エレクトロニクス事業部  
南杵築工場：ヘルスケア事業部  
八 坂 工 場：ヘルスケア事業部

### 発行日

2026年5月30日(次回：2027年5月発行予定)

### 参考にしたガイドライン

※GRIスタンダード2016  
※環境報告ガイドライン2018年版  
※GRI(Global Reporting Initiative)は、サステナビリティに関する国際基準と  
情報公開の枠組みを策定することを目的とした国際的な非営利団体です。

### お問い合わせ

〒879-5501 大分県由布市挾間町鬼崎688-2  
株式会社デンケン サステナビリティ推進委員会事務局

TEL. 097-583-5535 / FAX. 097-583-5580

E-mai. sf\_info@dkn.co.jp

私たちは、独自の価値を追求し、  
お客様とともに発展することで、社会に貢献します。

## MANAGEMENT POLICY

## 経営方針

## 01. お客様第一主義に徹する

顧客満足・お客様に喜んでいただき、  
お客様から尊敬される企業であり  
社員でなければならない。

## 02. 現場主義に徹する

デンケンは製造会社である。  
価格・品質・納期でナンバーワン企業を目指し、  
お客様からの信頼を得る。

### 03. 何事にも恐れずにチャレンジ

何事にも基本に忠実に果敢に  
チャレンジすることである。

#### 04. 公明正大に利益を追求する

仕事を通じて、製品を通じて、自分達の努力の成果として。  
高い利益を得、従業員の生活向上、株主への還元。

## 05. 環境に配慮した企業

## COMPANY PROFILE

## 会社概要

|       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 社 名   | 株式会社デンケン                              |
| 代 表   | 代表取締役社長 石井 源太                         |
| 設 立   | 1976年 6月                              |
| 資 本 金 | 7,520万円                               |
| 従業員数  | 532名（2026年4月現在、契約社員含む）                |
| 所 在 地 | 大分県由布市挾間町鬼崎688-2                      |
| 海外拠点  | 台湾支店<br>韓国支店<br>タイサポートセンター<br>中国蘇州事務所 |

**DENKEN**

グループ会社 7 社

DENKEN GROUP

新電力おおいた

DENKEN group



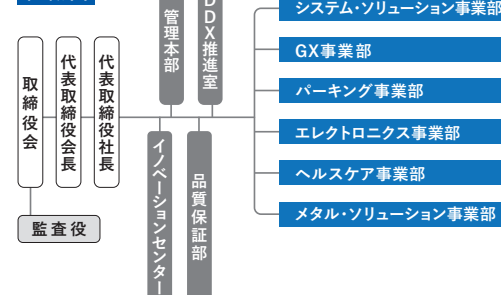
株式会社  
ティエイ・エス・アイ  
Teiji Seimitsu Industry Co., Ltd.


**ぶんごおのエネルギー**

**GOOD FEEL**



## 組織図



# 技術と信頼を未来へ

創業以来、私たちはお客様のニーズに応えるべく、製品ラインアップを拡充・進化させてきました。  
初期製品から最新の技術革新に至るまで、当社の製品は長年にわたる技術力とお客様の信頼の証です。

## History 【会社沿革】





# 2025 HIGHLIGHTS

2025年度は、創業50周年という節目を迎えるとともに、新工場の竣工や宇宙関連プロジェクトへの参画、海外拠点の節目など、当社の持続的な成長を象徴するさまざまな取り組みがありました。



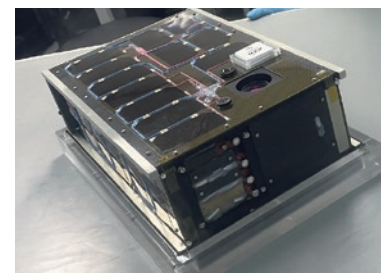
## デンケン 創業50周年を 迎えました

当社は2025年10月に創業50周年を迎えました。1975年の創業以来、私たちは誠実なものとサービスを大切に、時代の変化に対応しながらお客様の信頼に応えるべく歩を進めてまいりました。これからも持続可能な社会の実現に向け、社員一同が心をついて新たな挑戦に取り組んでいきます。



## 本社第二工場 竣工

2024年11月より建設を進めていた本社第二工場が、2025年10月に無事竣工しました。本社第二工場は、生産能力の向上と品質強化を目指した新たな拠点として、当社のものづくりを支える重要な役割を担います。これからも、持続可能なものづくりの実現に向けて設備投資を継続し、社会から信頼される企業としての責務を果たしながら、着実な成長を目指していきます。



## 「てんこう2」打ち上げ

地球低軌道環境観測衛星「てんこう2」は、当社が開発に携わった超小型人工衛星で、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)のH3ロケット7号機に搭載され、2025年10月26日に種子島宇宙センターより打ち上げられました。その後、2026年3月11日に、HTV-X1号機から放出され、日本大学の地上局が信号を受信、衛星軌道上での動作が確認されました。今後も衛星プロジェクトへの貢献を通じて、持続可能な宇宙利用を支援していきます。



## 台湾支店 開設20周年

2005年10月に開設した台湾支店は、皆様のご支援により20周年を迎えました。アジア地域の重要拠点として、海外調達やサプライチェーン最適化を通じ、グローバル事業を支えてきました。

20年間で培った経験とパートナーの皆さまとの協力関係を力に、今後も国際市場での価値創造に挑戦し、持続的な成長を目指します。



## Message from the President

# ～創業50年、その先の未来へ～ 変化に強い組織を目指して

創業50周年という節目を迎え、当社が今日まで歩み続けてこられたのは、地域社会の皆様、取引先の皆様、従業員の皆様をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様のご支援の賜物であると、あらためて深く感謝申し上げます。

社会・経済環境が大きく変化する中、持続的に成長していくためには、日々の小さな取り組みを着実に積み重ねる姿勢が不可欠です。当社は「凡事徹底」を基本に据え、当たり前のことを愚直にやり抜くことこそが、変化に強い組織を支える基盤になると考えています。

次の50年を見据え、経営基盤のさらなる強化と高度化に取り組むとともに、人的資本への投資を一層推進してまいります。一人ひとりが能力を最大限に発揮できる環境を整え、組織全体の力を高めていくことが、持続的な価値創造につながると確信しています。

加えて、「挑戦」を後押しする組織風土の醸成を通じて、新たな価値を生み出し続ける企業でありたいと考えています。

また、企業としての社会的責任を果たすべく、環境への配慮や地域社会との共生にも積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。これからも失敗を恐れず挑戦を続ける姿勢を大切にしながら、未来に向けて着実に歩みを進めてまいります。

今後とも一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社デンケン

代表取締役社長 石井 源太



# デンケンの3つの取組み

## 1.

### お客様のために、 ガバナンス強化への 挑戦

グループ全体の企業価値向上と持続的な成長の実現に向け、当社は中核企業として高付加価値領域への集中と、事業・財務の両面におけるシナジーの最大化に取り組んでまいります。

その基盤となるのが、人的資本と組織力の強化、そしてグループガバナンスの高度化です。これまで進めてきたグループ連携をさらに深化させ、機能連携や情報共有、人材の最適配置を通じて、グループ全体での価値創出力を高めてまいります。

また、投資の質を高めるため、各投資案件のパフォーマンスを継続的に評価し、必要に応じて迅速な改善を図る体制を整えていきます。あわせて、コア技術の深化と高付加価値領域の拡大に向け、設備投資、研究開発、人材、M&Aへの戦略的投資を着実に実行してまいります。

## 2.

### 地球のために、 カーボンニュートラルへの 挑戦

脱炭素社会の実現に向けた取り組みは、国際情勢の影響を受けながらも、中長期的には一層重要性を増しています。当社においても、エネルギーの安定確保と環境負荷低減の両立は重要な経営課題の一つです。

こうした認識のもと、温室効果ガス(GHG)排出量の把握と削減目標の設定を進めるとともに、再生可能エネルギーの活用を推進しています。具体的には、自家消費型太陽光発電の導入を進め、エネルギー構成の転換に取り組んでいます。

また、各拠点における省エネルギー活動の推進に加え、社員一人ひとりの環境意識の向上にも継続的に取り組んでいます。当社は「再エネ100宣言 RE Action」に加盟し、2040年までに使用電力の100%を再生可能エネルギーに転換することを目指します。

## 3.

### 未来のために、 人的資本経営と 従業員満足の向上へ挑戦

当社は、持続的な成長の源泉を「人」にあると捉え、人的資本経営を推進しています。一人ひとりが能力を最大限に発揮できる環境づくりと、次世代を担う人材の育成に注力しています。

働きがいと生産性の向上を両立するため、完全週休2日制の定着に加え、アニバーサリー休暇の導入や年間休日の増加など、働き方改革を着実に進めてきました。さらに2025年度には、「スポーツ・文化活動補助」を新設し、社員の心身の充実と自己成長を支援する取り組みを強化しています。

こうした施策を通じて、挑戦を後押しする組織風土を醸成し、社員の成長と企業の成長の好循環を生み出してまいります。

「社員の幸せが会社の成長につながる」という考えのもと、今後も従業員満足の向上と企業価値の最大化に取り組んでまいります。





# BUSINESS DETAILS

私たちが向き合う専門領域。ひとつひとつの専門性が、未来を創る確かな力となります。

## 工場の「簡単にする」をお手伝いします システム・ソリューション事業部

System Solutions Division

### Value Added Factory

工場の自動化や省人化をはじめとした課題解決をお手伝いいたします。装置開発からシステム開発、製造・販売・アフターサービスまでを一貫して提供し、お客様のものづくりをトータルでサポートします。多様化するニーズに応えるとともに、将来を見据えた新たな技術や取り組みにも積極的に挑戦しています。皆さまの挑戦を、確かな技術と信頼で支えます。

#### product / service



各種自動機



ODM/OEM



三相交流発生装置



AMRと  
協働ロボット



負荷試験装置



有機物磁気  
分解装置

#### topics

2025年10月に本社第二工場を増設し、生産面積は1,760㎡から4,260㎡へと拡大しました。生産体制の強化を通じて、将来的な需要拡大を見据えた、安定供給を実現する基盤を構築しています。



## 電子を科学する エレクトロニクス事業部

Electronics Division

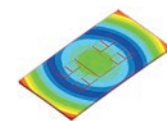
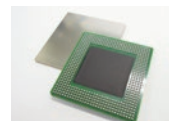
### エレクトロニクスを通じて、 より良い社会の実現に貢献します

2026年、AI、量子コンピューティング、スマートシティ/IoT、カーボンニュートラル、6Gの進展により、ナノオーダーの半導体プロセスの開発が加速しています。エレクトロニクス事業部は、この動向に合わせて、設計・試作から評価・解析まで一貫した支援を強化し、市場のニーズに着実に対応。未来を見据えた技術とサービスを通じて、より良い社会の実現に貢献します。



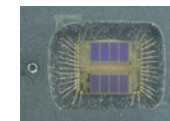
#### product / service

##### ▶パッケージ開発・試作から量産



熱シミュレーション

##### ▶半導体・受動部品 解析



パッケージ開封



OBIRCH 解析

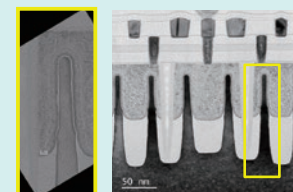
##### ▶信頼性試験・電気特性試験・EMC試験



#### topics

##### TEM(透過型電子顕微鏡) 装置導入

ナノオーダーの半導体プロセス開発が加速する中、拡大する解析需要へ着実に対応。



メーカー:JEOL  
型式:ACE200F



メーカー:FEI  
型式:Helios5



## モビリティシーンをデザインする パーキング事業部

Parking Division

### 移動にまつわる 市場・業界・地域・社会の 風景をつくる

私たちは、パーキング機器を通じて空間に新たな価値を創出することを使命とし、これからも革新的なサービスの提供に挑戦していきます。また、その取り組みを通じて社会への貢献を果たすべく、開発・製造・販売・サービスまでを一貫して行える体制を整え、より高品質なサービス提供を実現していきます。



#### product / service



#### service office

- ◇ 東京営業所(東京都千代田区)
- ◇ 大阪営業所(大阪府大阪市)
- ◇ 中部営業所(愛知県刈谷市)
- ◇ 福岡営業所(福岡県福岡市)

## 誰もが願う「健康」を考える ヘルスケア事業部

HealthCare Division

### 技術・品質への あくなき挑戦を通じて、 誰もが願う「健康」を、より身近に

ヘルスケア事業部は、家庭向け医療機器や健康・美容機器を通じて、日本国内はもちろん、アジア圏を中心とした世界中のお客様の健康づくりに貢献してきました。さらに、当社独自のヒーター素材を活用することで、ヘルスケアの枠を超えた新たな分野への展開を加速させています。



#### product / service

4つの強みで、お客様の期待  
に応えるモノづくりを実現  
いたします。



電位・温熱治療器



低周波治療器



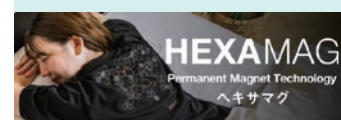
ヒーター



コンクリート養生シート

#### topics

#### 家庭用永久磁石磁気治療器の新規認証を取得しました。



「HEXAMAG/ヘキサマグ」は、家庭用永久磁石磁気治療器です。装着した部分の血行を改善し、筋肉のコリをやわらげます。肌と接する内側部分に磁石を配置したヘキサマグは、特許技術「relaxion/リラクシオン(※)」を活用した特殊なプリント加工を採用。磁石の凹凸が目立ちにくい自然な仕上がりを実現し、高いデザイン性と機能性を両立しました。

エネルギーを支える技術で未来をひらく

## GX事業部

GX Division

### 未来の為に one for all

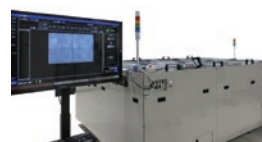
私たちはアナログ技術を基盤に、計測・検査装置の開発から製造、販売、保守までを一貫して手掛け、お客様のニーズにお応えしてきました。さらに、新電力事業者向け顧客情報管理システムの提供や、太陽光発電所の建設・運用をはじめ、お客様数地への太陽光設備設置による電力供給サービスなど、エネルギー事業にも取り組んでいます。



#### product / service



太陽電池モジュールテスター  
DKSMT-1527



太陽電池モジュール用  
ELテスター  
DKELTシリーズ



太陽電池セルテスター  
DKSCT-100-300



太陽電池  
モジュール  
リユース検査



顧客情報管理  
システム  
(ISO27001取得)

#### topics

次世代太陽電池として期待されている「ペロブスカイト太陽電池」の量産ライン向け検査装置を開発中。

「つくってみたい」を形にする

## メタル・ソリューション事業部

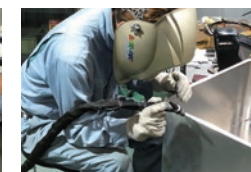
Metal Solutions Division

### 確かな技術と チャレンジ精神で お客様の要望を叶える

私たちは、構想設計から精密板金、塗装、組配までを総合的に支援する技術集団です。品質・コスト・納期の向上を追求しながら、新たな挑戦を続けています。また、グループ企業であるアイ・エス・アイと連携し、小物から大物までの精密板金や塗装を大規模に生産できる体制を整えており、多様なニーズにお応えできる総合力が強みです。



#### product / service 構想を現実に変える、製造インフラ



#### topics

板金工場の増設が完成し25年4月より稼働しました。金属加工の自動化と組立配線までをトータルにカバーする工場を目的としています。さらに、「デンケン未来光技術研究センター」を通じレーザーのスペシャリストである教授と金属加工の未来を目指します。



## 磁気で未来を計測し、磁力で未来を動かす MAGNIX株式会社

新生MAGNIX、  
次なるステージへ。

2025年4月、磁場を「つくる」東洋磁気工業株式会社、「はかる」株式会社エー・デー・エス、「みる・けす」マグネットフォース株式会社の3社が合併し、新生MAGNIXとしてスタートしました。

目に見えない磁気・磁力の技術は、産業機器、医療分野、センシング技術など社会のさまざまな場面で活かされています。

私たちは三社の技術と経験を融合し、磁気をつくり、磁場をみる技術を通じて社会課題の解決に取り組むとともに、レアアース代替材料の研究開発支援や磁性材料の資源循環にも貢献していきます。

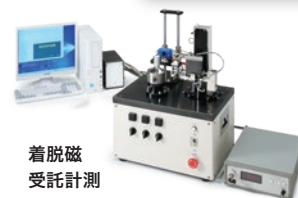
### product / service



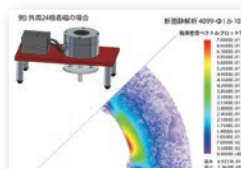
着脱磁電源／ヨーク設計・製造



フラックスメータ



着脱磁  
受託計測



評価

### topics

レアアース代替材料の研究開発支援や、廃棄磁性体の脱磁・回収技術を通じて、資源循環型社会の実現にも貢献してまいります。



#### ネオジム磁石常温脱磁装置

作業者の安全と地球環境保護のため、磁石が組み込まれた状態での脱磁に主観を置いた脱磁装置です。HV、EVモーターやMRI用の大型磁石、IPMモーターなどの脱磁に最適です。回転子に内装されている磁石を安全に取出しが可能となります。

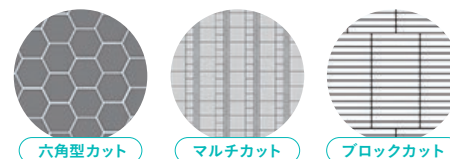
## 確かな技術と品質であらゆるニーズに応える 株式会社AK電子

ダイシング加工から出荷まで、  
安心の一環受託体制

半導体ウエハーおよび関連基板のバックグラインド、ダイシング、マッピングによるチップソート、トレイ詰め(JEDEC対応)など、後工程全般を幅広くサポートしています。1ウエハーや割れウエハー、チップ1個単位、単工程のみでも対応し、小ロットの試作や短納期に特化した“小回りの利く会社”としてお客様の多様なニーズにお応えします。

### product / service

#### ステルスダイシング加工



六角型カット マルチカット ブロックカット

純水、ブレードを使用しない光学的損傷現象を利用したダイシング技術モジークカット(レーザーON/OFF)で異形状(マルチウエハ、ゼブラウエハ)にレイアウトされたウエハ加工を実現。



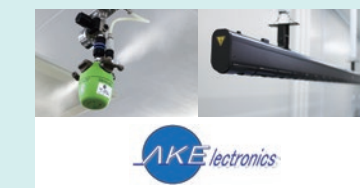
#### 高度な加工を実現する専用設備



### topics

#### 「小さくてもすごい会社」と言われたい！

「ステルスダイシング」の精度を極限まで高めるためのクリーンルームを完備。加湿器・イオナイザーによる徹底した静電気・ダスト対策を行うなど細心の注意をはらっています。目に見えないホコリ一つにも妥協しない姿勢が、高品質なもののづくりを実現しています。





# BUSINESS DETAILS

## 大分産のエネルギーで暮らそう 新電力おおいた株式会社

### GX(脱炭素社会への転換) ビジネスを通じて 地元大分に貢献

新電力おおいたは、電力自由化を機に誕生した大分の地域新電力会社です。電力供給を通じて、県内での経済循環、自然エネルギーの普及、地域課題の解決に取り組んでいます。脱炭素社会の実現に向け、太陽光の自家消費を促す「SUN給プラン」や、環境価値を付加する「おおいたのでんきグリーン」など、多様なメニューで地域に電力を届けています。



#### product / service



卒FIT太陽光自家消費プラン



CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロプラン



子育て世帯応援プラン

#### topics



大分市へつぎ防災広場  
大規模災害時、支援物資の輸送拠点となります。

### 大分市が脱炭素先行地域事業に採択されました

#### 脱炭素先行地域とは

2030年度までにカーボンニュートラルの実現を目指すと同時に地域の魅力と暮らしの質を向上させ、全国モデルとなる地域です。

#### へつぎ防災広場の取組み

新電力おおいたは共同提案者として太陽光発電設備と蓄電池を設置し、平時は先行地域エリアに再エネ電力を供給する発電所として、災害時はへつぎ防災広場の非常用電源として活用する計画です。

## 地域の電気で暮らそう 株式会社ぶんごおおのエネルギー

### 「地元の電源」を拡大し、 「エネルギーの地産地消」を目指す

ぶんごおおのエネルギーは、豊後大野市と県内企業・金融機関が官民共同で2017年に設立した地域新電力会社です。「エネルギーの地産地消」「自然エネルギー普及」「地方創生」「安心安全な暮らしの確保」を理念に掲げ、電力供給を通じて地域社会に貢献しています。



#### product / service



子育て応援プラン



公民館応援プラン



卒FIT太陽光買取サービス

#### topics

### 豊後大野市に ポータブル電源を寄贈

2025年3月に地域貢献の一環として、豊後大野市にポータブル電源17台を寄贈しました。寄贈したポータブル電源は、市内指定避難所に配備されて災害発生時の電力供給に活用されます。



寄贈した  
ポータブル電源



感謝状贈呈式

## 長年の技術力と新たな要素の融合 株式会社アイ・エス・アイ

### 製造に必要な工程を ワンストップ対応

昭和32年の創立以来、経験に裏打ちされた技と新しい技術を融合し、確かな精密板金製品を提供しています。メタル・ソリューション事業部と連携し、一品物から量産品、さらに機械加工まで、多様な精密板金加工に対応しています。



product / service



電子機器筐体



駐輪場自動化システム筐体



自販機空き缶回収ボックス

topics



門型5面マシニングセンタ



プレスブレーキ220ton



ファイバーレーザー9KW

## アウトソーシング事業 株式会社OAD-TEC

### 常に成長、常に発展

1996年にアクト大分として設立し、人材派遣事業を展開してまいりました。2020年にデンケングループの一員に加わり、商号を(株)OAD-TECへと変更。2021年には業務請負事業を開始いたしました。現在は、年齢・性別・国籍・障がいの有無に関わらず、幅広い人材を登用し、大分県内2拠点の業務請負事業と、人材派遣事業を中心に幅広い分野のモノづくりに挑戦しております。



#### 人材派遣業

- 精密機械の組立・検査
- 製品の加工処理
- 各種装備の組立
- 設備の保守・メンテナンス
- 一般事務
- 装置オペレーター etc…



#### 業務請負事業

- 電子機器の製造
- 駐輪場関連の装置製造
- 医療関連部品の製造
- 基板実装
- 配線加工 etc…

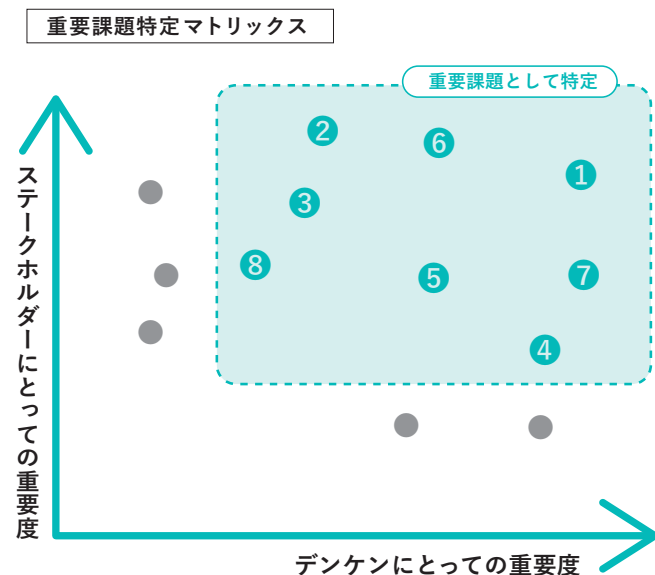
## マテリアリティの選定プロセス

### Materiality Management

当社の重要課題は、以下のプロセスおよびサイクルに基づき特定・管理しています。

#### 選定プロセス

当社は、経営方針や事業戦略、中期経営計画、事業環境、ステークホルダーからの要求、国際的なガイドラインおよび枠組み（GRI、SDGs、ESG）を踏まえ、重要課題を抽出・評価しています。

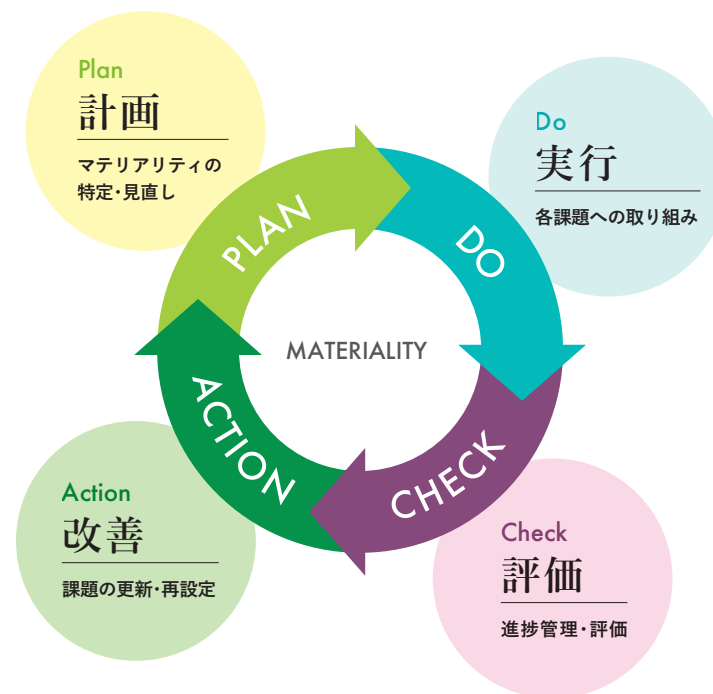


#### マテリアリティの特定 (事業環境の重要性)

- ① お客様との関係深化と差別化した製品・ブランドによる高付加価値化
- ② 気候変動、気象の激甚化
- ③ 加速するカーボンニュートラル
- ④ 国内の人口減少、少子高齢化
- ⑤ 働きがいのある職場作り
- ⑥ IoT、5G、AI普及とDX
- ⑦ 社員の幸福度向上
- ⑧ 水・食料・原料・燃料など資源の有限性課題が顕在化

#### マテリアリティの管理サイクル

当社は、マテリアリティの進捗を管理し、ステークホルダーの皆様のご意見を踏まえながら、継続的な見直しと改善を行っています。



重要課題は、「ステークホルダーにとっての重要性」と「当社（デンケン）にとっての重要性」の2軸で評価しています。右上に位置する項目ほど、優先度の高い課題です。なお、評価にあたっては一部の課題を個別に整理していますが、本レポートでは関連性の高いテーマを統合して開示しています。



# サステナビリティ経営

## Sustainability

当社は、持続可能な社会の実現と企業価値の向上に向け、事業環境や社会課題を踏まえ、重要課題（マテリアリティ）を特定し、以下の7つに重点的に取り組んでいます。

### MATERIALITY

| 当社の重要課題                            | 課題解決に向けた取り組み                                                                                                                                              | 対象SDGs                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. お客様との関係深化と差別化した製品・ブランドによる高付加価値化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●品質への取り組み</li> <li>●コーポレートガバナンスの強化</li> <li>●情報セキュリティ対策</li> <li>●知的財産（無形資産）への取り組み</li> <li>●ステークホルダーの声</li> </ul> |                                                                                          |
| 2. 気候変動、気象の激甚化<br>加速するカーボンニュートラル化  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●GXの推進</li> <li>●環境活動</li> <li>●BCPへの取り組み</li> </ul>                                                               |       |
| 3. 国内の人口減少、少子高齢化                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●健康経営への取り組み</li> </ul>                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 4. 働きがいのある職場作り                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●労働安全衛生への取り組み</li> <li>●社会貢献活動</li> </ul>                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 5. IoT、5G、AI普及とDX                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●全社DXを牽引するDDX推進室を設置</li> <li>●HP</li> </ul>                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 6. 社員の幸福度向上                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●人的資本経営の推進</li> <li>●教育への取り組み</li> <li>●充実した福利厚生</li> </ul>                                                        |                                                                                                                                                                     |
| 7. 水・食料・原料・燃料など<br>資源の有限性課題が顕在化    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●省エネルギーに向けた脱炭素化の取り組み</li> </ul>                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

## 環境方針

つくる、そのすべてに環境という視点を

私たちは、製品のライフサイクル全体を通じて環境への影響を見つめ、事業活動のすべてのプロセスで環境負荷の低減に取り組んでいます。

### 基本理念

株式会社デンケンは、持続可能な社会の実現を人類最大の課題として捉え、事業活動の全ての面で地球環境に配慮し、行動します。

### 基本方針

気候変動への対応と2050年カーボンニュートラル実現に貢献する為、あらゆる事業活動において、次の通り環境管理並びに環境負荷の低減に全力を挙げて取り組みます。

## 1. 環境目標は優先的に以下の活動に取組みます

- ①ライフサイクルの視点を考慮した製品の設計・開発・製造
- ②省エネ活動の推進(CO2 排出量の削減)
- ③環境汚染物質の削減

## 2. RE Actionの達成

2040年までに当社が使用する電気の100%再エネ化を達成する。

※2021年1月「再エネ100宣言RE Action」加盟

## 3. 環境マネジメントシステムの推進

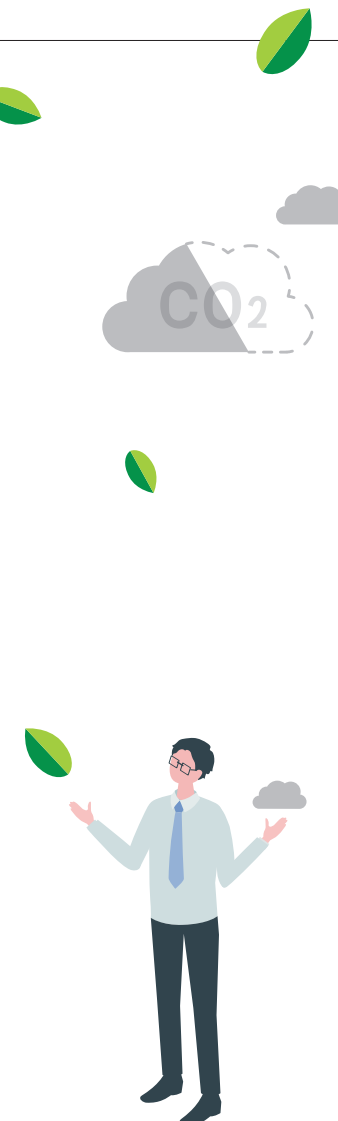
環境マネジメントシステムを推進し、環境影響の把握・目標の設定・定期的レビューにより、環境汚染の予防、環境保全活動に積極的に取り組みます。

## 4. 環境関連法規の順守

環境に関連する法規・条例等や顧客要求事項等を順守し、自主管理基準を定め、維持管理の向上に努めます。

## 5. 環境方針

方針を、当社のために働く全ての人々に周知し、また社外に公開します。



# 気候変動への対応

## GHG削減への取り組み

現在、気候変動対策の国際ルール「パリ協定」で世界が目指す目標(1.5度までに抑える)に対し極めて深刻な状況にあると考え、当社は気候変動への対応及びカーボンニュートラル実現の為、自社事業活動におけるGHG排出量削減と共に省エネ活動の推進・GXの取

り組み・「再エネ100宣言 RE Action」への取り組みなどをおとして、GHG排出量削減への取り組みを実施しております。2025年度はScope1・2・3共に前年度比で減少となりました。今後、削減目標の設定を行うと共にGHGの削減に取り組みます。

## Scope 1・2・3 排出量

|         | 2024年度(構成比)            | 2025年度(構成比)            | 前年度比 | 対策                                                  |
|---------|------------------------|------------------------|------|-----------------------------------------------------|
| Scope 1 | 133 tCO2<br>(0.3%)     | 127 tCO2<br>(0.3%)     | 95%  | 省エネ活動<br>CO2排出量削減                                   |
| Scope 2 | 4,743 tCO2<br>(8.9%)   | 4,540 tCO2<br>(10.2%)  | 95%  | GXの推進<br>RE Action<br>省エネ活動                         |
| Scope 3 | 50,410 tCO2<br>(90.9%) | 39,932 tCO2<br>(89.5%) | 79%  | 環境配慮設計<br>アップサイクル<br>LCAの改善<br>循環型社会実現<br>※P20~22参照 |
| 合計      | 55,286 tCO2            | 44,599 tCO2            | 80%  |                                                     |

Scope 1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出 / Scope 2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出  
Scope 3：Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

## Scope 3 内訳

| カテゴリ          | 2025年度排出量   | 2025年度構成比率 |
|---------------|-------------|------------|
| 1 購入した製品・サービス | 22,815 tCO2 | 57.1 %     |
| 2 資本財         | 7,023 tCO2  | 17.6 %     |
| 5 事業から出る廃棄物   | 22 tCO2     | 0.1 %      |
| 6 出張          | 840 tCO2    | 2.1 %      |
| 7 雇用者の通勤      | 233 tCO2    | 0.6 %      |
| 11 販売した製品の使用  | 8,897 tCO2  | 22.3 %     |
| 12 販売した製品の廃棄  | 100 tCO2    | 0.3 %      |
| 合計            | 39,930 tCO2 |            |



当社のGHG排出量は肥後銀行様が開発したアプリ「炭削くん」にて算出しております。  
※GHGとは温室効果ガスのことを指します。地球の温度を上昇させる温室効果をもたす気体の総称です。

## 省エネ活動の目的

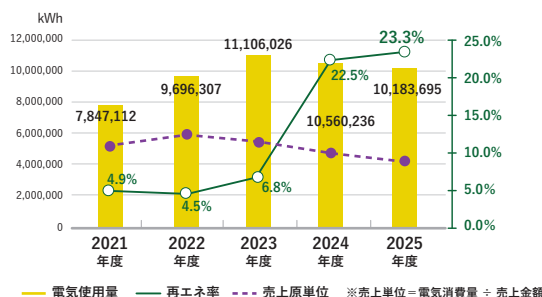


1. 日本政府による2050年カーボンニュートラル達成に貢献する。
2. 各工場単位で省エネを推進する事により、株式会社デンケンとして省エネ法の年平均1%原単位削減を遵守する。
3. RE Actionで目標とした2040年までに再エネ100%を達成する為に、工場で使用する電気の再生可能エネルギーの転換を実施すると共にエネルギー使用量削減を目指す。

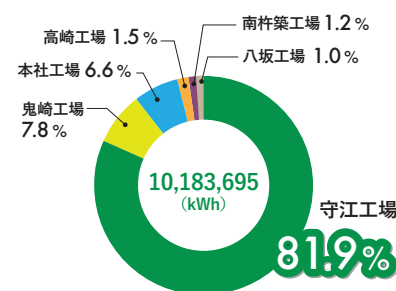
## デンケン全社の過去5年電力使用量推移

事業拡大、生産拡大により、電気使用量は2023年度までは増加傾向にありましたが、高効率空調機への変更・LED照明への変更等の全社的な省エネ活動を推進する事により、2025年度は前年度比で微減となりました。また、売上あたりの原単位削減は2022年度以降減少しております。

《電気使用量推移(全社)》



《デンケン全社電気使用量内訳》



2025年度のデンケン全社の再エネ比率は23.3%となりました。本社工場及び高崎工場での自家消費太陽光発電所の稼働と省エネ活動を推進する事により、再エネ比率は年々上昇傾向となっております。

## 再エネ100%に向けた取り組み



当社は、2040年までに使用する電力の100%再生可能エネルギー転換を目指した取り組みを推進しております。

### 1. 再生可能エネルギー転換推進

- ①工場における自家消費型再生可能エネルギー発電設備導入推進
- ②将来的な卒FIT電源の自社への供給

### 2. 省エネ活動の推進

- ①エネルギー管理標準、設備管理台帳の運用による無駄なエネルギーの削減
- ②空調更新・運用改善によるエネルギー効率性の向上



# ENVIRONMENTAL ACTIVITIES

## GX推進への取り組み

### カーボンニュートラル 日本政府の動向

2020年10月、当時の菅首相は「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比46%削減する目標が示されました。また、2023年にはGX推進法が成立し、脱炭素社会の実現に向けた取り組みが国全体で加速しています。

当社においても、再生可能エネルギーの活用拡大と地域社会への貢献を通じ、GX(Green Transformation)への取り組みを推進しています。

#### 【日本政府の目標】

2030年 温室効果ガス46%削減(2013年度比)

2050年 カーボンニュートラル達成



### DGXプロジェクト推進中 DENKEN Green Transformation Project

脱炭素社会への転換に向け、当社社内でのDGXプロジェクトをとおして、温室効果ガスを発生させる化石燃料から、太陽光発電、水力発電などの再生可能エネルギー中心の社会構造へと転換をビジネスを通じて促していきます。

※英語圏では「Transformation」を略して「X」と表現する慣習があります。

### 再生可能エネルギー導入の取り組み

本社第二工場では、パネル出力295kWの太陽光発電システムを導入し、CO<sub>2</sub>排出量削減と再生可能エネルギー利用拡大に取り組んでいます。

さらに、自家消費型ソーラーPPAモデルの導入支援にも取り組んでいます。当社が太陽光発電設備を設置し、お客様は初期費用を抑えながら再生可能エネルギーを利用できる仕組みです。

不足する電力については、新電力おおいた株式会社による再エネ100%相当の「おおいたの電気グリーン」を供給し、カーボンニュートラル店舗の実現を支援しています。

#### PPA事例紹介

#### 自家消費ソーラー(PPA)+再エネ電気供給



大分銀行 日岡支店・津留支店・萩原支店

#### 地域との連携

### 環境省「第7回脱炭素先行地域」に大分市が採択

新電力おおいた株式会社は、大分市が環境省「第7回 脱炭素先行地域」に選定されたことに伴い、共同提案者として本事業に参画いたします。本取り組みでは、医療機関の脱炭素化と災害時にも持続可能な電力供給体制の構築を推進します。

※脱炭素先行地域とは(環境省事業)／脱炭素先行地域は、2030年度までに民生部門の電力消費に伴うCO<sub>2</sub>排出実質ゼロを目指す地域を国が選定し、重点的に支援する制度です。地域特性を活かした再生可能エネルギー導入や、防災機能を備えたエネルギー基盤整備が求められています。



自家消費太陽光発電(本社第二工場)

本社第二工場に太陽光発電システム(パネル出力295kW)を設置しました。

#### 蓄電池による再エネ活用の最適化

#### 蓄電池+自家消費ソーラー

太陽光発電システムと蓄電池を組み合わせることで、発電量の変動を補完し、電力の需給バランスの最適化および再生可能エネルギーの有効活用を図っています。



脱炭素参考地域選定証(大分市)



## EV + V2H

社員(通勤)向けに電気自動車  
をリース導入し、昼間は移動型蓄  
電池として工場の電力需給平準  
化に活用しています。

※大分県エコエネルギーチャレンジ  
支援事業にて推進

## デンケングループ所有 FIT太陽光発電所

デンケングループでは、FIT制度に基づく  
太陽光発電所を全国に所有・運営しており、  
合計28MWの発電容量を有しています。年間  
の総発電量は約28,000MWhであり、ご家庭  
約7,500軒分に相当する電力を発電してい  
ます。これにより、年間約16千トンのCO<sub>2</sub>排出  
削減に貢献しています(排出係数は九州電力  
を参照)。

### ソーラーファーム防府 (パネル容量: 11,500kW)



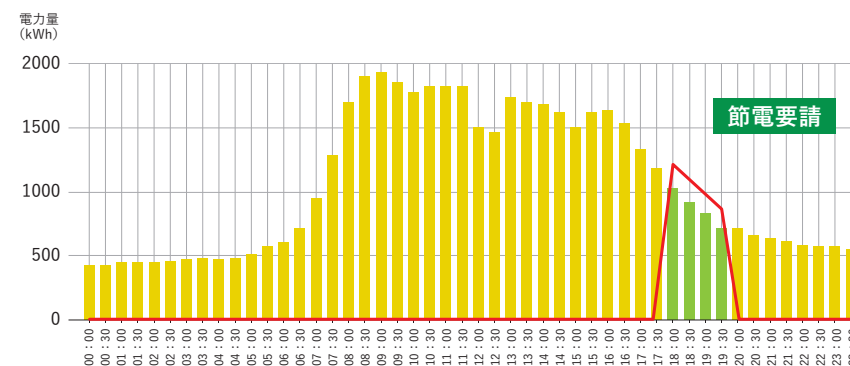
また、FIT期間満了後も永続的に再生可能  
エネルギーを生み出し続けることができる  
よう発電設備を更新(リパワリング)してい  
ます。リパワリングにより発電効率が上がり  
発電量UP、故障リスクも低減しています。



### 発電設備リパワリング (ソーラーファーム阿蘇)

## DR (デマンドレスポンス)

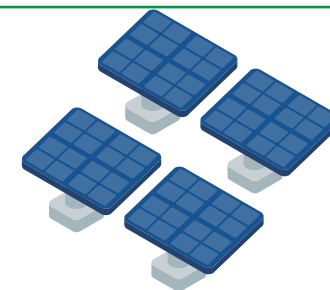
新電力おおいとの需要家に呼びかけ、電力需要をシフト。  
電力の需給逼迫を回避する取り組みを行っています。  
2027年度より容量市場(発動指令電源)にも参加する予定です。



### ソーラーファーム由布 (パネル容量: 1,200kW)



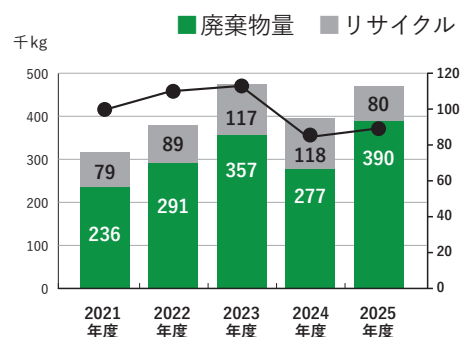
# ENVIRONMENTAL ACTIVITIES



## 2025年度 環境負荷実績 (大分県内6事業所)

当社は経営方針に「環境に配慮した企業」を掲げ、2002年に環境ISO取得し、ゴミの分別や省エネ活動に継続して取り組み、環境負荷の低減を目指しております。2025年度の環境負荷実績は以下のとおりです。

排出量推移(全社)

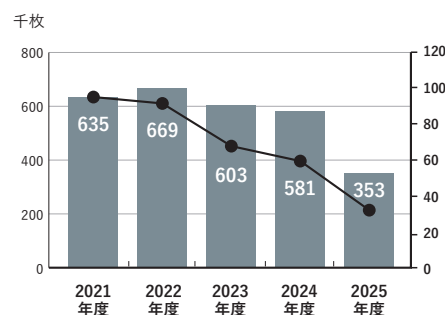


総排出物量  
**469,339 kg**

2021年度比 原単位 **10%削減**

排出物につきましては、前年度比で排出物量が増加となりました。製品配慮設計による廃棄物削減や社内でリユース・リデュースを進める事で排出物の削減に継続して取り組みます。

紙使用量推移(全社)

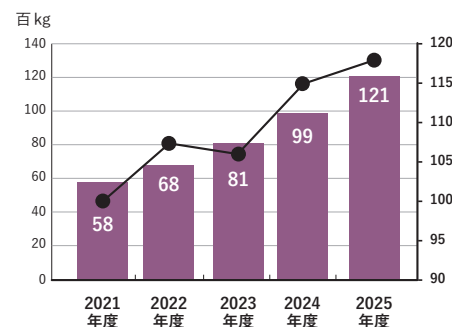


紙使用量  
**352,750 枚**

2021年度比 原単位 **66%削減**

紙使用量はレスペーパーの推進により、大幅に減少となっております。

PRTR対象物量推移(全社)

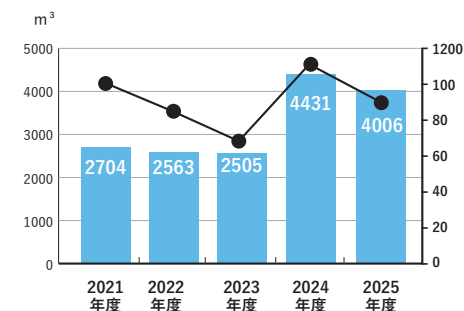


PRTR対象物量  
**12,143 kg**

2021年度比 原単位 **18%増加**

PRTR対象物量は生産量の増加と共に使用量と売上原単位あたりともに増加傾向となっております。

水使用量推移(全社)



水使用量  
**4,006 m³**

2021年度比 原単位 **31%削減**

水使用量は前年度比で減少傾向となりました。

※棒グラフは実績、折れ線グラフは2021年度を100とした場合の原単位(売上との相関)



## 環境活動実績

### 本社間接部門

#### 【目標①】

2050年脱炭素化社会実現に向けた  
企業活動の推進

#### 成果

CO2削減：17,215 t-CO2

発電量：524,470 kWh

100%  
達成率

省エネパトロールと改善提案を実施。本社工場・高崎工場ともに年1%原単位削減を達成。太陽光発電によるCO2削減は累計17,215t-CO2(目標比123%)。新本社工場295kW設置含む3拠点の合計で、524,470kWhの電力を再生可能エネルギーで賄いました。

#### 【目標②】

工場美化活動の推進

#### 成果

防草シート・芝生植生による防草対策(斜面整備)を実施。年4回の緑化推進活動(花植え・植栽管理)、年1回の周辺清掃を実施済み。創業50周年に向けたシンボルツリー植樹は検討継続中。

80%  
達成率



### エレクトロニクス事業部

#### 【目標①】

2025年度末までに  
電力削減量  
42,000kWh/年を達成する

#### 成果

電力削減量：32,114 kWh

76%  
達成率

更新対象6台の空調設備を省エネタイプへ更新(更新前比約50%省エネ効果)。工事開始時期のずれにより年間目標は未達(実績32,114kWh / 目標42,000kWh)。2026年度は分電盤単位の電力見える化を展開し省エネ効果を最大化する計画。



#### 【目標②】

2025年度末までに避難所開設時の  
対応、準備、近隣住人への  
評価継続を達成する

#### 成果

地域評価：良好  
(アンケート結果)

100%  
達成率

2025年度の開設依頼はゼロだったが、市との連携で備蓄品入替・「野辺区風水害避難訓練」への参加など継続した取り組みを実施。周辺清掃・交通安全巡視を通じ近隣住民アンケートで良好な評価を維持。



# ENVIRONMENTAL ACTIVITIES

## GX事業部

### 【目標①】

余剰手配部材の削減

#### 成果

余剰部材: **18/4,168** 個

EL検査装置(開発機)のアセスメントにより全4,168個の部品を調査し、余剰品18個を特定。必要量手配リストを整備し過剰調達を防止することで目標達成。

100%  
達成率

### 【目標②】

ペーパーレスの推進

#### 成果

紙削減: **1,243** 枚 (CO2換算1.7kg)

紙媒体で排出している文書の洗い出しを実施し、削減可能な項目及び、その削減可能枚数を算出。削減目標1,200枚に対して1,243枚削減を達成。目標を上回る成果を実現。

100%  
達成率



## MS事業部

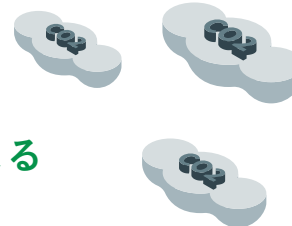
### 【目標①】

CO2削減

#### 成果

製品品質向上による  
CO2削減 ⇨ 未達

不具合対応で発生するCO2削減に取り組みました。年度目標3,648kWh以下に対し、年度実績4,028kWhとなり未達。(実績率110.4%)



50%  
達成率

社内CO2削減施策

⇨ 達成

年度目標24,500kWhに対し、年度実績 **24,576kWh**  
削減目標に対して 実績率 **100.31%** となりました。

### 【目標②】

環境・人に優しい  
部材・機器の情報収集と導入

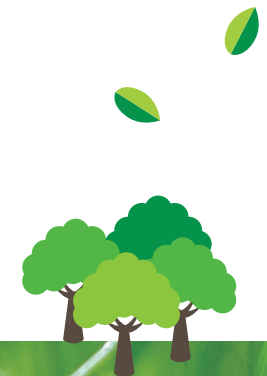
#### 成果

目標4件に対し、  
**6件の導入検討を実施**

(以下一部を抜粋)

- カーボンオフセット(LPG)の導入の検討
- マシニングセンタの切削油削減となる機能の調査
- クリーン冷媒スポットクーラーの導入の検討
- 板金棟屋根へのソーラーパネル敷設検討

100%  
達成率



## ヘルスケア事業部

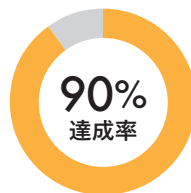
## 【目標①】

素材変更による  
環境負荷低減

## 成果

PVC ⇒ EVAへの素材変更

製品BAGの窓素材をPVCからEVAへ変更し、環境有意性を評価・確認(写真:EVA素材採用後のBAG)。自社製品への切替は完了(コスト削減実績 ¥449,700/年)。他社製品への切替提案を継続中。



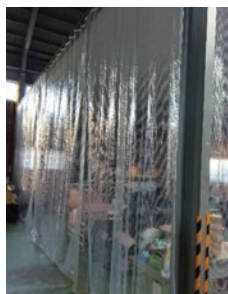
## 【目標②】

設備改善による省エネ活動

## 成果

CD設備2番乾燥炉の  
熱源見直しを推進

機種選定・見積取得を実施。新たな課題発生により測定データ分析を継続中。二次加工エリアのパーティション化(写真)による空調効率化・ルール化・効果モニタリングを並行推進中。



## パーキング事業部

## 【目標①】

精算機売上の一部寄付

## 成果

合計 寄付金額 **¥662,000**

社会課題解決のために、こども食堂等に支援を行う団体や緑化事業団体へ寄付し、合計662,000円を社会・環境貢献に充当。

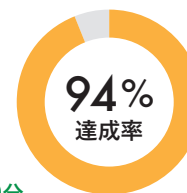


## 【目標②】

完全ノー残業デーの実施

## 成果

4月～1月に月2回(年間20日)、終業後30分以内での退社・消灯を実施。本社に加え、東京営業所・大阪営業所でも実施。



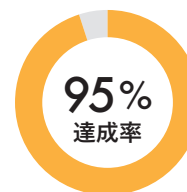
## 【目標③】

ペーパーレス推進  
(帳票電子化)

## 成果

年間紙使用量：**892** 枚削減

出荷品リスト・出荷検査成績書・現地検査成績書の電子化を実施し、年間892枚の紙使用削減を達成。装置ごとに印刷・添付していた書類を電子管理に移行。



## SS事業部

## 【目標①】

有機物磁気分解装置による  
廃棄物の自社処理

## 成果

廃棄物の社外委託を削減

有機物磁気分解装置を使用し、ダイオキシン等の環境汚染物質の排出を減らしながら、

社内可燃物 **144.3 kg** を処理。





## 品質定性評価（主な取り組み）

品質管理および人材育成の強化を通じて、継続的な品質向上に取り組んでいます。

### 品質教育によるQMS浸透

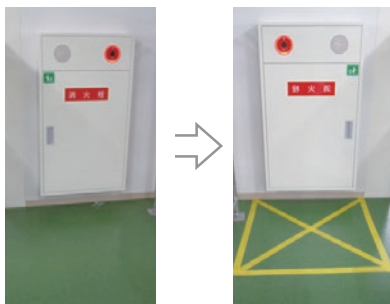
QMS浸透を目的としたISO認証適用組織ではありませんが、営業所所属社員に対する品質教育を実施し、全社的な品質意識および品質スキルレベルの向上に取り組んでいます。

具体的な教育手段として、Teachmeトレーニング機能を用いた動画によるQMS教育、および理解度テストを実施。また、翻訳機能を活用し、外国人実習生に対しても同一内容の教育を実施しています。

### 現場力強化に向けて クェイス(QEIS)パトロールを実施

従来のパトロールは、品質(Q)や安全(S)に特化した巡回活動でしたが、新たに環境(E)および情報セキュリティ(I)を加えた「QEISパトロール」として実施しています。現場重視の活動を通じて、潜在的な課題の抽出と改善に繋がっています。

パトロール



## 品質目標

- QMS(品質マネジメントシステム)規格要求及び顧客要求事項、法規制を満足する製品・サービスを提供します。
- 継続的改善に取り組み、顧客満足向上に繋がります。
- 品質目標達成に向けた組織内外のコミュニケーションを徹底します。

### 真因究明による再発防止

品質不具合の是正には真因究明が重要ですが、再発事象などから真因究明に至らずに再発するケースが確認されておりました。

そのため各組織と連携しながら「なぜなぜ分析」の展開を進め、真因究明の支援および各組織に対する分析手法の教育実践機会として取り組んでまいりました。

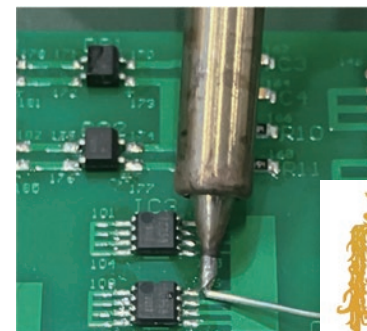
詳細には異常品質管理規則に基づき真因究明へのアプローチとして「特性要因図」と「なぜなぜ分析」を実施し、特性要因図にて原因への重要な因子を特定し、重要な因子に対するなぜなぜ展開を実施して是正対策として効果が見込める内容へと確認する内容であります。「なぜなぜ分析」手法を極めるのは難しい側面もありますので社外研修での学びの機会と社内での教育研修を通して真因究明へのスキルアップを鋭意進め是正に努めております。

### ヒューマンエラー防止への取り組み

品質管理強化の一環として、人を中心としたヒューマンエラー防止活動に取り組んでいます。研修で得た知見を活用し、従来対応の見直しを進めるとともに、各品質担当者を通じた実践指導や動機付け、是正フォローの強化を推進しています。また、相手を思いやる意識の醸成にも取り組み、現場での実践に繋がっています。

### 技能認定制度による品質強化

昨年は、はんだ付け1級講習の受講修了段階でしたが、このたび無事にはんだ付け1級試験に合格しました。これは弊社初の合格者となります。今後は、社内のはんだ付け作業における品質向上を目的として、対象製品へのフィードバックを行うとともに、はんだ付け作業従事者の認定制度の精査・改善による管理強化に取り組んでいます。引き続き、有資格者の育成および社内認定制度の充実を図り、品質の安定化に努めてまいります。



はんだ付け作業  
1級認定書



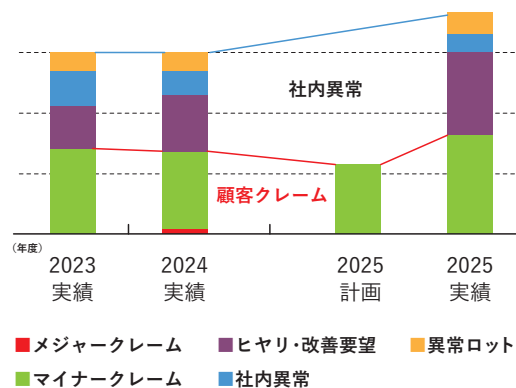
## 品質定量評価

品質不具合やお客様からのクレーム推移を分析し、品質課題の把握と継続的改善に取り組んでいます。

昨年に引き続き、業績においては10%強の売上増となり堅調に推移しました。一方で、事業拡大に伴う品質管理面での改善機会も認識しており、是正対応および再発防止活動を継続して進めています。業績拡大に比例した管理体制強化や、4M分析結果から見える事業部間での管理方法・改善活動の差異についても、横展開や応用力向上を含めた改善課題として捉えています。

品質マネジメントのあるべき姿を再認識し、長期的な視点で着実に改善活動を推進するとともに、不具合低減に向けた真因究明および正検証の精度向上を社内連携のもと進めています。今後も、お客様からの信頼と期待にお応えできる品質体制の構築に取り組んでまいります。

《会社品質不具合推移》

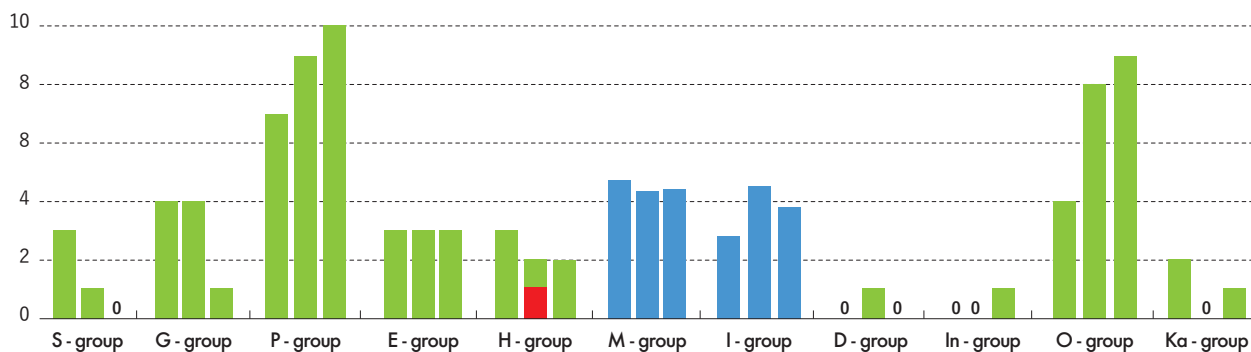


### 品質課題への対応とコスト改善の進展

マイナークレームについては計画値を上回る発生となりました。出荷段階では検知が難しく、実使用環境において判明する不具合も確認されています。現在は、事前検証の重要性を踏まえ、未然防止に向けた仕組み強化を進めています。また、不具合の低減に加え、発生した場合でも社内段階で早期対応に繋げる取組を重要視しています。グラフには記載していませんが、品質欠陥コストについては前年度比で40%弱の改善となり、削減に繋がりました。

《グループ別お客様からのクレーム推移》※グラフ左より、2023・2024・2025年度

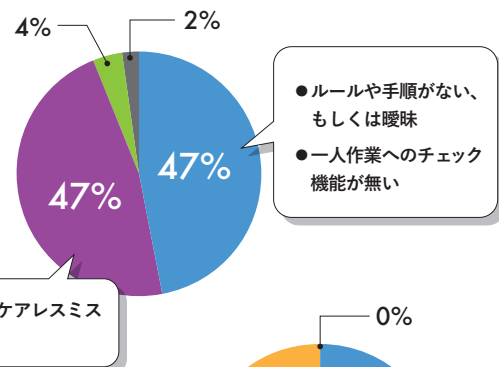
■メジャークレーム ■マイナークレーム ■加工クレーム



### 4M分析

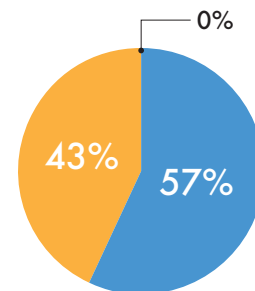
■方法  
■人  
■部品  
■装置

●属人化によるケアレスミス  
●力量不足



### 3H分析

■変更  
■初めて  
■久しぶり



## QMS維持管理対応

QMSのもと、品質情報の共有や品質意識向上に向けた取り組みを推進しています。  
また、PAF法を活用した予防型品質管理を通じて、品質向上と品質コスト低減の両立を図っています。

### 品質管理情報の共有

#### 品質 新聞

デンケングループの品質情報を  
グループで共有することを目的として  
隔月に発行しています。



品質欠陥コストなどの品質指標(KPI)実績情報、品質マネジメントレビュー情報、各種品質改善の横展開情報、品質教育やはんた付け作業などの認定教育に掛かる教育情報、品質不具合における是正へのワンポイントレッスン情報、品質巡回(クエイパトロール)結果情報、QMSルールの更新情報、計測機器に関する校正計画や機器管理情報、第三者機関によるISO審査状況及び内部監査結果情報など、旬な情報として広く社内報としての一翼も担いながら品質情報を発信しております。

#### 品質 標語

グループ会社を含めて従業員からの応募があり「品質意識」「啓蒙」への高揚が期待される12件が選出されました。HPや掲示板で周知を行っています。

|     |                                              |
|-----|----------------------------------------------|
| 5月  | 何か変 作業を止めて 報連相<br>エレクトロニクス事業部/I.S            |
| 6月  | 当たり前を当たり前。品質は日々の積み重ね<br>SS事業部/Y.M            |
| 7月  | 小さな芽 摘み取る意識が プロの質<br>エレクトロニクス事業部/P.Q         |
| 8月  | 品質は会社の顔です、柱です<br>アイエスアイ/T.N                  |
| 9月  | 信頼は品質から、品質はプロ意識から<br>エレクトロニクス事業部(中部センター)/A.K |
| 10月 | 品質は、社員でつくる社会資産<br>管理本部 購買課/T.Y               |

|     |                                             |
|-----|---------------------------------------------|
| 11月 | 基本こそ 品質を支える 第一歩<br>エレクトロニクス事業部/V.N          |
| 12月 | 属人化 見える化しちゃえば 共有化<br>新電力おおい/H.S             |
| 1月  | 手を抜いた品質後処理倍返し<br>エレクトロニクス事業部/H.M            |
| 2月  | これくらい 勝手な判断 命取り<br>管理本部 購買課/M.G             |
| 3月  | 品質は一人一人の自覚から<br>エレクトロニクス事業部/N.V             |
| 4月  | 小さな改善 大きな信頼への第一歩<br>エレクトロニクス事業部(中部センター)/H.K |

### 先手の品質コスト対応へ

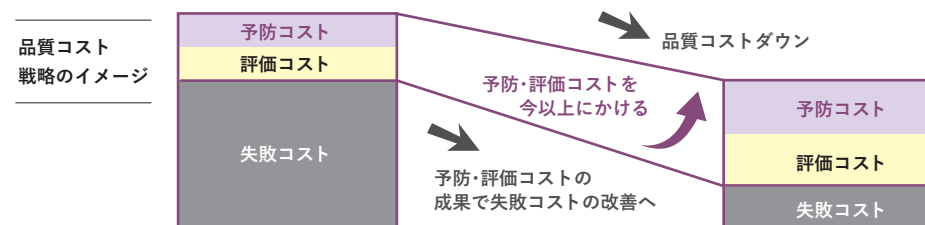
#### 品質コスト(PAF法)からの アプローチ改善へ

従来の事後対応による品質コスト増加を踏まえ、「品質＝コスト」という考えから、「品質を競争力へ繋げる」視点への転換を進めています。予防・先手の品質投資による改善活動を推進し、全体コストの低減に取り組んでいます。



計画段階や作り込み段階での完成度、精度の向上にリソースを集中させ  
全体の品質コストの低減へ繋げる。

特に人財の教育、訓練を行うことで意識改革も行います。





## 社会貢献活動の紹介

当社は、教育支援・環境活動・地域貢献を通じて、次世代育成と地域社会への継続的な貢献に取り組んでいます。

### 教育支援 社会科見学(西庄内小学校の皆様)



2025年6月6日に、  
由布市立西庄内小学校の4年生が  
社会科見学で高崎工場に来場されました。

パーキング事業部の社員から、事業内容や駐輪場ラックの特徴、AIを活用した車両識別ゲートシステムなどを紹介しました。社員の話に熱心に耳を傾け、気になる点を積極的に質問する姿が見られました。実際の製品や技術に触れることで、教室だけでは得られない気づきが生まれ、学びを深めていただけたようです。

### 環境教育 環境教育(石城小学校の皆様)



2026年1月26日、  
由布市立石城小学校の5年生の皆さんに  
高崎工場へ来て頂き、  
環境教育を行いました。

GX事業部や新電力おおいの従業員とともに、ゴミの分別について学んだほか、太陽電池の実験や木製ペレットを使ったソーラーカーづくりにも取り組みました。光の力で動く仕組みを体験することで、再生可能エネルギーへの理解を深めていただく機会となりました。

### 社会貢献・表彰 社会教育功労者表彰



2026年2月7日(土)に開催された、  
「令和7年度 由布市生涯学習・社会教育  
振興大会」において、当社GX事業部が  
社会教育功労者として表彰されました。

石城小学校における環境教育の一環として、光電池の実験を通じた出前授業の実施や、由布市や大分市の少年少女発明クラブへの出前事業での指導者を務めており、子どもたちの興味・関心を広げる活動に継続的に取り組んでいます。

### 地域貢献・寄付活動 大分県への寄付



当社は、2015年より地域ものづくり産業の振興に貢献することを目的として、継続的に寄付活動を行っています。

今年度もその取り組みが評価され、社長の石井が大分県庁様を訪問し、寄付の目録を贈呈しました。贈呈式では、大分県知事 佐藤樹一郎様より、長年にわたる支援に対する感謝の意を込めた感謝状が授与されました。

今後もデンケンは、地域社会とともに成長し、ものづくり産業の発展に貢献できる企業を目指してまいります。

# CORPORATE CITIZENSHIP

## 環境教育・科学体験 体験型イベント「サイエンスフェス2025 in 大分」



2025年9月20日(土)、J:COMホルトホール大分で開催された、体験型科学イベント「サイエンスフェス2025 in 大分～大人も子どもも科楽の世界へ～」で環境問題(ゴミの分別や4R※)についての座学を行いました。

その後、参加してくれた子どもたちとソーラーダイナソーの組立を実施いたしました。当日は人工的な光を当て恐竜が動く様子を見て頂きました。このイベントに参加してくれた子ども達が「科学って面白い」「もっと知りたい」と感じてくれたなら、私たちとしても大きな喜びです。

※4Rとは、リフューズ・リデュース・リユース・リサイクルの4つです。

## 教育支援 休日特別講義(花園中学校)



2025年10月18日(土)  
大分豊府中学校で開催された  
「大分花園中学校」の休日特別講義に  
当社が講師として参加しました。

「花園中学校」は、大学教授や企業人が講師となり、普段の授業では触れない専門的な内容について、実技や実験などを通して体験できる講義を行う取り組みです。

当社は、半導体についての講義に加え、はんだ付け作業を伴うモノづくり体験を実施しました。



## 地域貢献・寄付活動 パーキング事業部における寄付活動

当社パーキング事業部では、社会への還元を目的とした寄付活動を継続的に実施しています。精算機1台の販売につき、社会課題解決のためにこども食堂等に支援を行う団体と、緑化事業団体へ寄付しています。

本活動は、地域の子ども支援や都市の緑化推進に役立てられており、寄付金の活用先が明確であることから、当社の社会貢献の姿勢を分かりやすく示すものとなっています。また、当社製品の導入が社会貢献につながる仕組みとして、お客様にとっても付加価値を提供しています。

### 寄付先



公益財団法人  
森林ネットおおいた



公益財団法人 東京都公園協会  
Tokyo Metropolitan Park Association



※寄付先団体のロゴ及び名称は、五十音順に掲載しております。※寄付先団体様のロゴ及び名称の掲載は、事前にご承諾をいただいた団体様のみとさせていただきます。

## 地域貢献・寄付活動 システム・ソリューション事業部における寄付活動



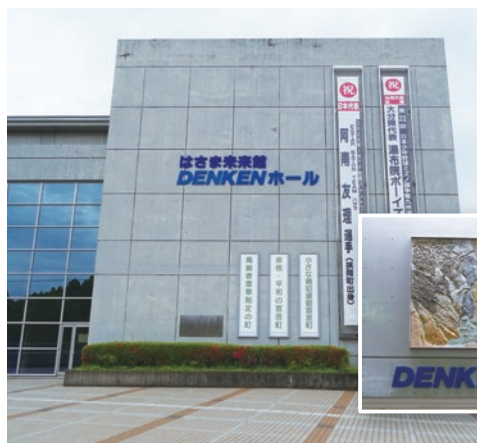
システム・ソリューション事業部では  
ペットボトルキャップを回収し、  
トキハわさだタウン様を通じて  
回収業者へ売却しています。  
2025年度は、66.7kg(約33,350個)を売却。

得られた収益は慈善団体を通じてワクチンの購入費として寄付され、支援を必要とする国々の子どもたちへ届けられます。

今回の寄付では、約33本分のワクチンが  
提供される見込みです。



## 地域貢献 「はさま未来館」ネーミングライツ(由布市挾間町)



当社は、地域との共生を目的に「はさま未来館」の文化ホールに対するネーミングライツを取得。

地域住民の皆さまの学習・交流・文化活動を支える活動を推進しております。今後も、地域の皆さまが安心して集い、学び、交流できる豊かな環境づくりに貢献してまいります。

## 地域貢献 献血



当社では、地域医療への貢献を目的に、献血バスによる社内献血を定期的実施しています。

社員が気軽に参加できる環境を整えることで、安定した血液供給の確保に寄与し、地域社会の健康を支える取り組みを継続しています。



## 地域貢献 周辺清掃活動



当社では、地域社会への貢献活動の一環として、定期的に周辺清掃活動を実施しています。

社員が主体となり、大分県内の全事業所周辺の道路や公共スペースの清掃を行っています。地域の美化と環境保全に貢献することを目的に、継続的に取り組んでいます。



## 人的資本経営

### 人材をどう育て、どう活かし、どう支えるか

当社は人的資本経営のもと、人材の成長と活躍を支えるため、人事制度・働き方・福利厚生の各面から環境整備を進めています。人事制度を含む各種人事施策は、人事理念「豊人の創出」を土台として設計・運用しています。

#### 人事制度改革

2023年度より、時代に即した人材像の確立に向け、人事制度を大幅に刷新しました。社員の成長を通じて、働きがいや生きがいの向上につながる仕組みとして再構築しています。また、人的資本の価値を最大化するため、教育制度の見直しを行い、運用を開始しました。

##### 《人事制度の概要》

当社の人事制度は、以下の3つで構成されています。

- 等級制度** 役割・能力・成長段階を明確化
- 評価制度** 実力発揮度を評価し成長につなげる
- 報酬制度** 貢献に応じた処遇で行動を促進

(人事制度改革の背景) 当社は創業以来、多様な事業へのチャレンジによる多角化を通じて成長を遂げてきました。外部環境の変化を踏まえ、事業成長をさらに加速させるため、付加価値の高い人材を継続的に輩出する仕組みとして人事制度を再構築し、運用しています。

#### 年間休日の増加と アニバーサリー休暇の導入

ワーク・ライフ・バランスの向上を目的に、当社では働き方・休み方改革を推進しています。「社員の幸せ＝会社の成長」という考えのもと、2024年度より年間休日の増加およびアニバーサリー休暇を導入しました。制度の定着により、休暇取得は改善しています。

##### 年次有給休暇 取得日数 (2025年度実績)



2025年度の年次有給休暇取得日数は13.5日となり、前年度(11.8日)から約14%増加しました。

##### 育児休業取得状況 (2025年度実績)

取得者: 男性 8名 / 女性 4名  
【対象者: 男性8名 / 女性4名】



#### 福利厚生の充実

健康診断やストレスチェックの実施に加え、企業年金や業務災害総合保険、養老保険など、万が一に備えた福利厚生制度の充実を図っています。また、有給休暇取得促進や働きやすい職場環境づくりにも取り組み、社員が安心して長く働ける環境整備を進めています。さらに、福利厚生制度への理解促進を目的として、社員向け福利厚生等ハンドブックを作成・配布し、制度活用の推進に取り組んでいます。



##### <掲載内容一例>

- 会社負担の将来制度
- 会社加入の保険制度
- 各種手当、補助
- リファラル採用制度
- 休日、休暇
- 育児、介護に関する制度など

人事理念 『豊人の創出』: 豊人とは、経済的な安定や豊かさだけでなく、自己実現を通して、働きがいや生きがいといった「心の豊かさ」を持っている人のこと。

※自己実現とは、自分の能力、可能性を発揮し、創造的活動や自己の成長を図ること

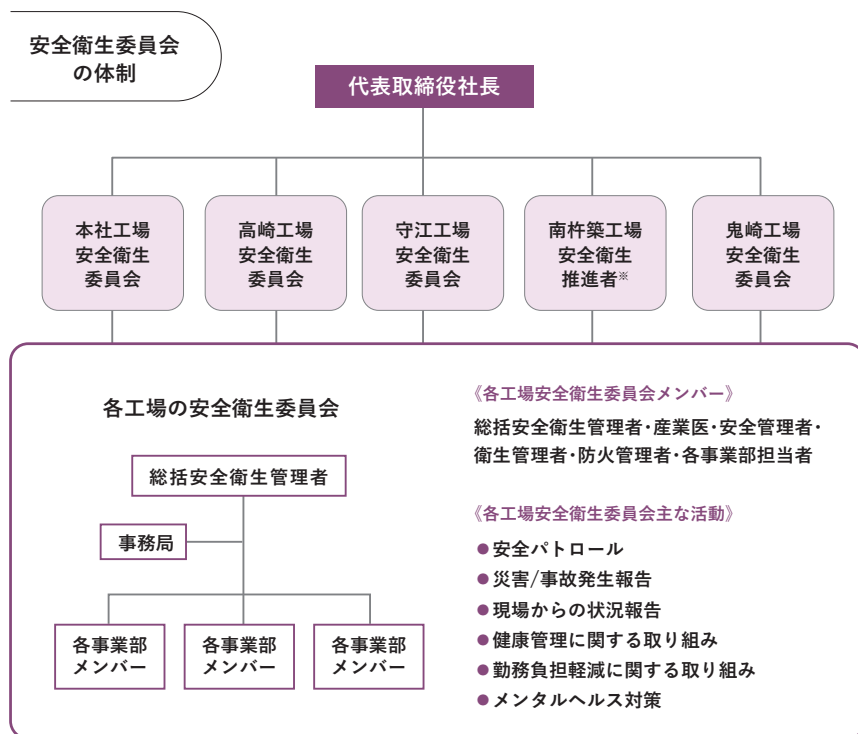
# 労働安全衛生への取り組み

## 安心して働ける環境をどう守るか

当社は、労働安全衛生法に基づき各工場に安全衛生委員会を設置し、その活動を中心に、安全パトロールや交通安全運動、事例共有、リスクアセスメントを通じて事故の予防・防止に取り組んでいます。また、各工場の情報を本社に集約し、全社的な安全衛生の推進を図っています。

### 安全衛生体制の強化

安全衛生委員会の活動を中心に、安全パトロールや交通安全運動、事例共有などの取り組みを実施しています。



※南杵築工場は常時使用する労働者が50人以下の為安全衛生推進者選任のみ

### 健康経営の推進

従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらすと考え、健康診断・ストレスチェック等を通して、健康経営の推進に努めております。



健康経営優良企業2026認定  
(中小規模法人部門)

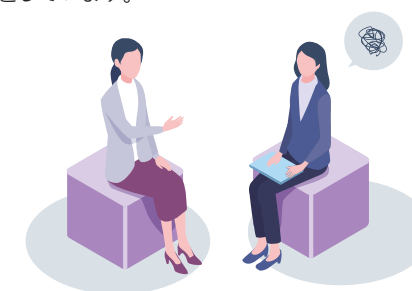
### 相談体制の整備

#### ハラスメント相談窓口の設置

当社では、ハラスメント防止の為に相談窓口を設置し実際にハラスメントが起こっている場合だけでなく、その可能性がある場合にも相談をしてもらい、ハラスメントのない職場づくりに努めております。

#### モヤッと相談室の開設

心身の疲れやストレス、業務や私生活の悩みについて相談できるよう、外部より専門家である社会福祉士を招き、相談機会を設けています。「誰かに話を聞いてほしい」と感じた際にも気軽に相談できる体制を整え、社員一人ひとりが安心して働ける職場環境づくりを推進しています。



## DDXによる人的資本と現場力の強化

「高付加価値化 × 人的資本 × 経営基盤」を三位一体で推進し、AI・DX活用を加速



本取り組みは、DXを通じて従業員の生産性と働きやすさを向上させ、現場主導で価値創出ができる組織への転換を目指すものです。



DENKEN DIGITAL TRANSFORMATION  
[会社][製品][業務プロセス][組織・制度][文化・風土][ビジネス][サービス]

### デンケンではデジタルで変革する

当社のDDXは、業務効率化にとどまらず、業務・製品・サプライチェーンを横断的にデータで接続し、意思決定の高度化と実行スピードの向上を図る取り組みです。

経済産業省の示すDX推進指標とDDX戦略に基づき業務の仕組みを可視化し、“現場の効率化意識”のもと改善活動を推進することで、品質と対応力の向上を実現しています。

これにより、お客様の事業継続や脱炭素の取り組みを支えるとともに、企業価値とサステナビリティの同時向上を目指しています。

#### SDGs目標



### 2026年度：重点施策（構想→実装）

#### 1 脱アナログ・パイロット職場設置

- 業務システム分析／再構築を起点に刷新
- データ整備 ⇒ データベース化 ⇒ システム連携
- 自動回付（承認の滞留・手戻りを削減）
- 「デジタルで回る業務プロセス」を実運用まで落とし込む
- モデル化し他部署へガイドラインとして横展開

#### 2 DDX人材層の拡大（全社に存在）

- 目標管理にDDX行動を組み込み、評価項目として明確化
- 人材育成体系を再構築し、生産性向上を推進
- 現場主導で「決めて実行する」体質へ転換を支える環境の整備
- 断捨離／脱アナログを各組織が自走し定着化を図る

推進方法

ツール導入で終わらず、実運用・定着・横展開までを“型”として確立し、企業価値とサステナビリティを同時に高める。

### 成果

#### 顧客価値の拡大

これらの取り組みにより、見積・納期回答のリードタイム短縮や品質情報の可視化が進み、顧客対応の迅速化と信頼性向上を実現しています。

回答スピード ⇒ 見積・納期のリードタイム短縮

品質の見える化 ⇒ データ分析に基づく根拠の提示

信頼性 ⇒ トレーサビリティの強化と監査対応力の向上

提案力 ⇒ 顧客課題を先回りした改善提案

#### サステナビリティへの効果

環境負荷の低減および資源効率の最大化に寄与しています。

- 環境負荷の低減 … 紙資源の削減／エネルギー・排出の抑制
- 資源効率の向上 … ムダ業務の断捨離で資源・工数を最適化
- 透明性の向上 … データ連携でサプライチェーン可視化



# 教育への取り組み

## 「個」の可能性を信じ、共に未来を切り拓く教育への取り組み



デンケンでは、創業50周年を機に改めて原点を見つめ直し、階層別の教育やメンター制度を通じて、社員一人ひとりが安心して成長できる環境づくりを推進しています。

### 《基本的な考え方》

自ら学び、高め合う。  
社員の可能性を解き放つ  
「挑戦」の風土づくり

2025年度は、各階層に応じて必要な知識を習得できるよう、社員教育の充実に取り組み、成長を支援しました。また、ハイブリッド形式の研修も活用しながら、階層別の取り組みをさらに充実させ、社員が主体的に学びを深められる環境づくりを推進しました。

今後もこれらの取り組みを継続・発展させ、社員一人ひとりが安心して挑戦できる環境を整え、社員が自らの可能性を信じて成長していける風土を育んでいきます。



### メンター制度

若手社員による育成支援



若手が新人を支え、  
共に育つ「安心」の相談体制を構築

新入社員には、若手社員がメンターとして一人ひとりに付き、1年間にわたりサポートを行っています。業務上の些細な困りごとや、誰に相談すべきか分からないような内容についても、気軽に相談できる体制を整えています。



### マネジメント研修

デンケンの歴史を知る



原点(歴史)を深く理解し、  
次代の組織運営に活かす

マネジメント研修では、創業50周年を迎える節目として、石井会長より当社の歩みや大切にしてきた価値観についてお話いただきました。会長の経験に基づくメッセージは、管理職が当社の原点を理解し、今後の組織運営に活かすための貴重な機会となりました。



### 選抜マネジメント研修

インターバル型研修を実施



事業部の垣根を超えた知見共有で、  
組織全体の変革を加速

2024年度に開催した選抜マネジメント研修のフォローアップを本年度実施しました。事業部を横断して管理職が集まり、課題や知見を共有しながら活発な意見交換を行い、事業部間シナジーの創出につながっています。組織全体のマネジメント力向上を後押ししています。

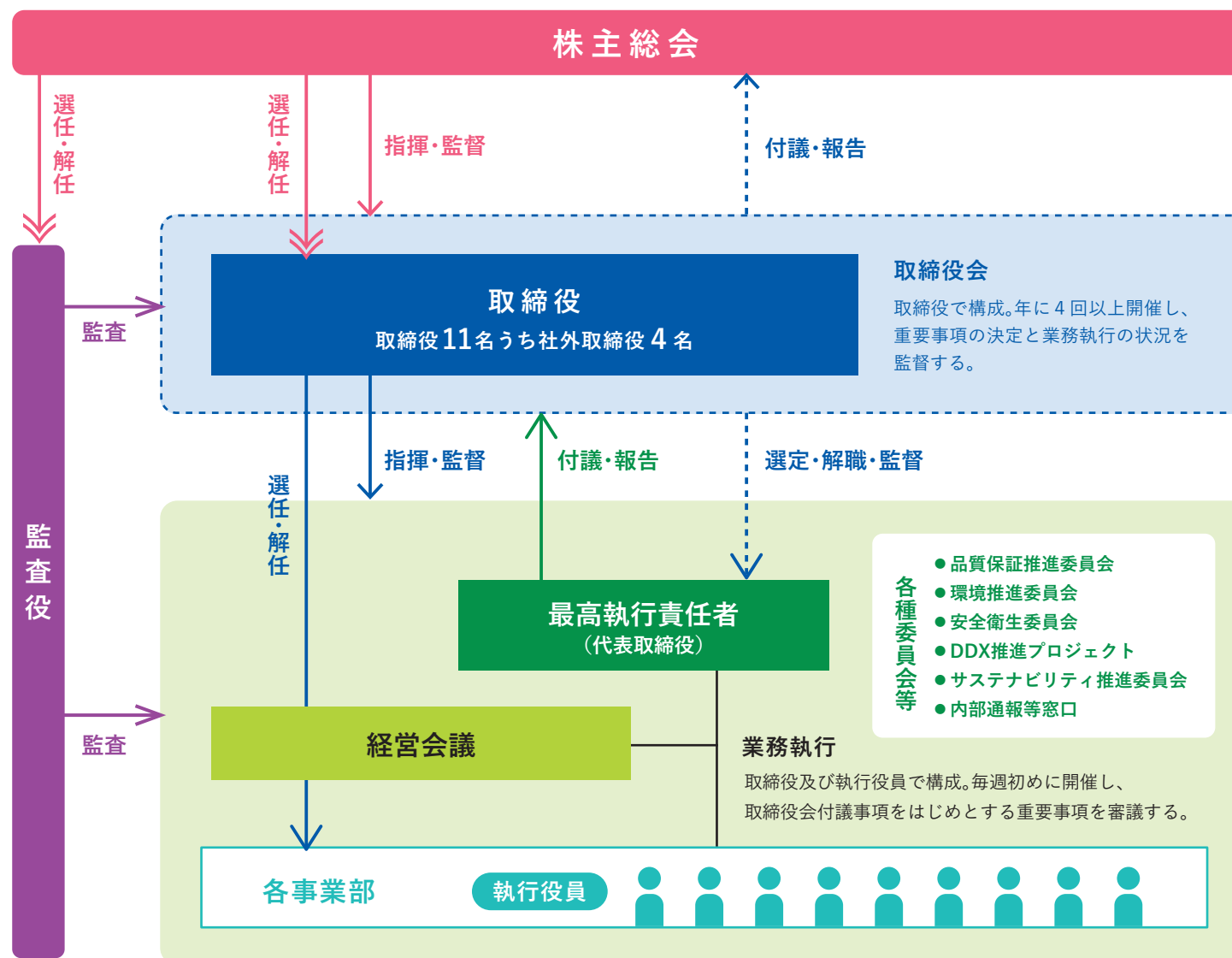
# GOVERNANCE

信頼と成長を支える基盤。その確かさが、企業価値を高めています。

## ガバナンス体制図

### コーポレート・ガバナンス および経営体制

株式会社デンケンは、取締役会設置会社であり、事業に精通した取締役と客観的・専門的な視点を持つ社外取締役で構成されています。取締役会が経営の基本方針や重要な業務の遂行を決定し、公正な判断運営がなされるよう監視・統制する体制を設けております。



## 知的財産(無形資産)への取り組み

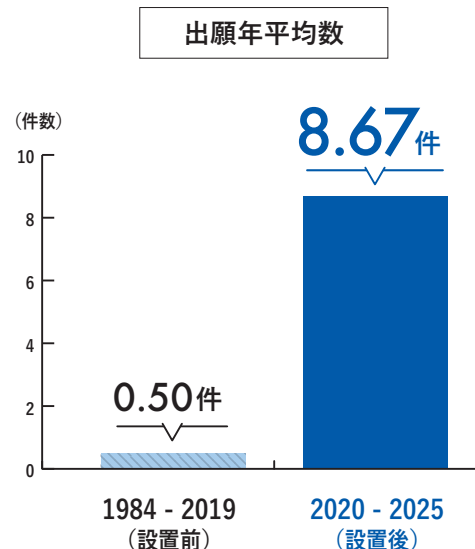
### ブランドと技術を未来へ繋ぐ。デンケンの知財戦略

デンケンでは知的財産(無形資産)を積極的に活かすため、2020年より社内に知財専門部署を設置しております。



#### 商標出願数の 大幅増加と 知財意識の向上

1984～2019年の出願総数は18件(登録14件)、2020～2025年の出願総数は52件(登録43件)です。商標出願数は大幅に増加し、登録率も78%から83%へと向上しており、これらの取り組みが商標分野における知的財産意識の向上を牽引しています。

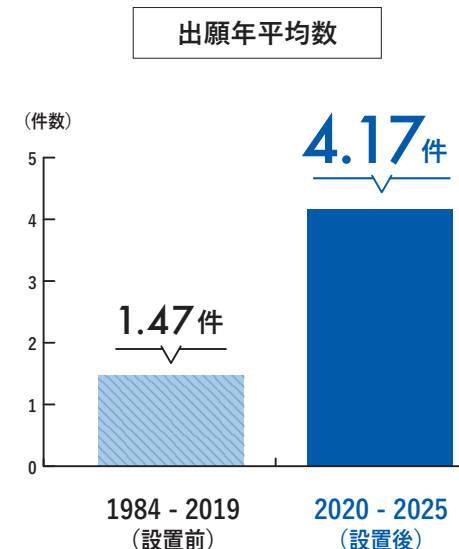


| 期 間                   | 出願総数 | 登録数 | 登録年平均 | 登録率 |
|-----------------------|------|-----|-------|-----|
| 1984 - 2019<br>(35年間) | 18件  | 14件 | 0.39件 | 78% |
| 2020 - 2025<br>(5年間)  | 52件  | 43件 | 7.17件 | 83% |



#### 特許出願の精度向上と 特許登録率 95%※の 達成

1984～2019年の出願総数は53件(登録15件)、2020～2025年の出願総数は25件(登録21件)です。直近では出願の年平均ペースが向上しており、登録率は全出願ベースでは約84%、審査完了案件ベースでは95%※に達しています。これにより、特許出願の精度向上が進展しています。



| 期 間                   | 出願総数 | 登録数 | 登録年平均 | 登録率  |
|-----------------------|------|-----|-------|------|
| 1984 - 2019<br>(35年間) | 53件  | 15件 | 0.42件 | 28%  |
| 2020 - 2025<br>(5年間)  | 25件  | 21件 | 3.50件 | 95%※ |

※登録率は審査完了案件ベース(審査中案件を除く)



## デンケンの行動指針

### 持続可能な社会の実現へ 「9つの柱」

当社は、倫理性を重視し、社会から信頼され、必要とされる企業であり続けることを目指しています。この実現に向けて、持続可能な企業活動を通じて社会への貢献を重要な経営課題と位置づけています。その基盤として、「行動指針」を策定しました。本行動指針は、当社のすべての役員および従業員、ならびに関係者が共有し、実践すべき行動の基準を示すものです。



#### 1 倫理的行動

信頼されるビジネスの徹底



デンケンの全ての事業活動において高い倫理基準を維持します。すべての従業員は、誠実さ、公正さ、透明性をもって行動し、企業の信頼性と評判を守る責任を負います。

#### 4 環境保全

豊かな未来を次世代へ



私たちは、持続可能で豊かな社会実現を人類最大の課題として捉え、事業活動のすべての面で地球環境に配慮し、行動します。

#### 7 各国・地域との協調

グローバルな信頼関係



私たちは、国際的な法規や倫理基準を尊重し、グローバルなビジネス環境においても高い倫理基準を維持します。国際規範に従うことで、公正で透明性のある事業運営を実現します。また、事業を展開する各国・地域社会との良好な関係を築き、その発展に寄与します。

#### 2 人権の尊重

すべての人に敬意を



私たちは、すべての従業員、お客様、取引先、および地域社会の人々の人権を尊重し、平等で敬意をもって接します。

#### 5 品質への取り組み

製品とサービスの卓越性を追求



私たちは、人材と技術を軸に付加価値を創出する持続成長可能な企業へと進化し、お客様に選ばれる存在であり続けます。

#### 8 働きやすい職場環境

安全と安心の職場づくり



私たちは、すべての従業員が安心して安全に働ける職場環境を提供することを目指しています。

#### 3 社会貢献

持続可能な社会への貢献



私たちは、企業市民としての責任を果たし、持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。地域社会や環境への積極的な関与を通じて、社会全体の福祉と繁栄を促進します。

#### 6 知的財産と情報管理

革新と独自の情報を保護



私たちは、知的財産と情報の管理を重要視し、適切に保護・管理します。これにより、企業の競争力を維持し、信頼を確保します。

#### 9 運用体制

指針をカタチにする仕組み



私たちは、行動指針を確実に実施するための運用体制を整備し、継続的な改善を図ります。すべての従業員が指針を理解し、遵守するための仕組みを構築し、透明性ある事業運営を実現します。

# 情報セキュリティ活動レビュー

## GX事業部 新電力支援ビジネスグループ

新電力事業を支える業務運営・システム支援を担い、安心・安全なサービス提供に向けた情報セキュリティ強化に取り組んでいます。

### ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)の 意図する目的への対応

情報資産の安全性確保に向け、基本方針に基づいた維持管理および改善活動を継続して実施しています。急速な技術革新や環境変化が進む中、自社システムにおける脆弱性対策やサイバー脅威への対応など、リスク管理の重要性はますます高まっています。これらに対応するため、監視設備インフラの構築や

各種手順書・運用ルールの整備を進め、運用体制の強化に取り組んでいます。また、PCへのBitLocker設定の徹底や、個人情報保護法をはじめとする関係法令の改正動向についても、継続的に対応・フォローできる仕組みづくりを推進しています。

#### 情報リスク対応の振り返り

#### 《 秘密保持に関する 誓約書ルール変更 》

署名していただく目的をしっかりと把握していただくため、署名前に内容の説明を行うことをルール化しました。

#### 《 リスク分析の見直しを実施 》

保有する情報を適切に管理するため、情報資産、またその資産におけるリスク分析の見直しを実施しました。



各種書類における署名運用を通じて、単なる同意取得にとどまらず、情報資産保護の目的を理解した上での遵守意識の定着を図る取り組みを行っています。

### 《 情報セキュリティ方針 》

#### 【基本理念】

株式会社デンケンは、様々な事業活動を通じて取り扱う情報に対し、必要な「機密性」「完全性」「可用性」を確実にして情報セキュリティを取り扱い、情報価値に見合った対応を行います。

#### 【基本方針】

株式会社デンケンは、顧客の情報などを安全に管理することが重要であると考え、情報を適切に管理するために情報セキュリティ対策を整備し、確実に実施することを目的として下記事項を実施します。

1. 情報資産の機密性、完全性、可用性を確実に保持するため、予防並びに是正に努め、物理的、人的/組織的、技術的に適切な管理策を策定し、実施します。
2. 情報セキュリティ対策に関する対策は、対象組織の役員を含む全従業員が参画します。
3. 情報を取り扱う事業者としての社会的責任を果たすべく、保有する情報を適切に管理するために、情報セキュリティマネジメントシステム(以下ISMS)を確立し維持します。
4. 関連する法規制要求事項および契約上のセキュリティ事項を確実に遵守します。
5. 対象組織の役員を含む全従業員に対して、セキュリティの重要性を認識するように教育・訓練を定期的実施します。
6. ISMSが有効に実施され維持出来ていることを内部監査で確認し、また情報に対する脅威の変化に対してISMSを継続的に改善します。



情報インシデントの発生

0 件

顧客からの  
セキュリティクレームの  
発生

0 件

リスク受容点数

4 点以下を達成



情報セキュリティ方針及び活動目標共に遵守と達成を確認しております。引き続きISMSへの適合性や適切性、有効性及び情報セキュリティに対する管理強化に努め継続的に安心頂ける環境構築に取組みます。

## BCPへの取り組み

### 安全確保と事業継続へ

当社は2011年にBCP(事業継続計画)を策定しました。その後、新型コロナウイルス感染症をはじめとする多様化するリスクに対応するため、より実効性の高い体制の必要性を認識しました。これを受け、独立行政法人中小企業基盤整備機構の専門家派遣による支援のもと「事業継続力強化計画」を策定し、2022年2月に認定を取得、さらに2025年3月には更新認定を取得しています。

また、専門家の支援を受けながら、従来のBCPをBCM(事業継続マネジメント)の考え方に基づいて見直し、全社的な推進体制の

整備に加え、教育・訓練および維持管理の仕組みを継続的に運用しています。

さらに、本社第2工場の新設により生産キャパシティが拡大し、災害時における代替生産や供給継続の体制強化が図られています。加えて、昨今の震災の教訓を踏まえ、飲料水や非常食などの備蓄の重要性を改めて認識し、現在は国内の全工場・営業所への備蓄品配備を進めるとともに、拠点ごとの定期的なリスク分析を実施し、大規模災害への備えを一層強化しています。

### BCP基本方針 (2023年9月1日 制定)

1. 従業員、協力会社、地域住民などの人命の安全確保に最大限努めます。
2. 被災住民の救助・避難、被災地の復興支援により、地域社会に貢献します。
3. 感染症の発生時においても人命を最優先して、社員と社員の家族の安全と生活を守ります。
4. 主要製品の供給継続、または出来る限り速やかな供給再開により、顧客への製品供給責任を果たします。
5. 事業を可能な限り継続し、経営への影響を最小限に留めることにより、お取引先・株主・従業員を含む全てのステークホルダーの期待に応えます。



※「持続力強化計画」とは

中小企業の自然災害等に対する事前対策（防災・減災対策）を促進するため、「中小企業の事業活動の継続に資するための中小企業等経営強化法等の一部を改正する法律（中小企業強靱化法）」が2019年7月に施行され、中小企業強靱化法において、防災・減災に取り組む中小企業がその取組内容（事前対策）をとりまとめた計画（名称：事業継続力強化計画）を国が認定する制度を創設しました。

# BCP

Business Continuity Plan

### 主な取り組み内容

#### ヒト



- 業務のマニュアル化
- 安否確認訓練、避難訓練の実施、BCP教育
- 特定の工場を避難所として登録

#### モノ



- 本社工場、本社第2工場での自家消費型太陽光発電設備の設置
  - 災害発生を想定した生活必需品の備蓄
- ※2025年7月に新規事業所への配布を実施

#### カネ



- 取引銀行からの当座貸越枠の設定
- 各種損害保険への加入、定期的な見直し

#### 情報



- 工場間で相互にバックアップデータを保管
- クラウド化



## ステークホルダーの声



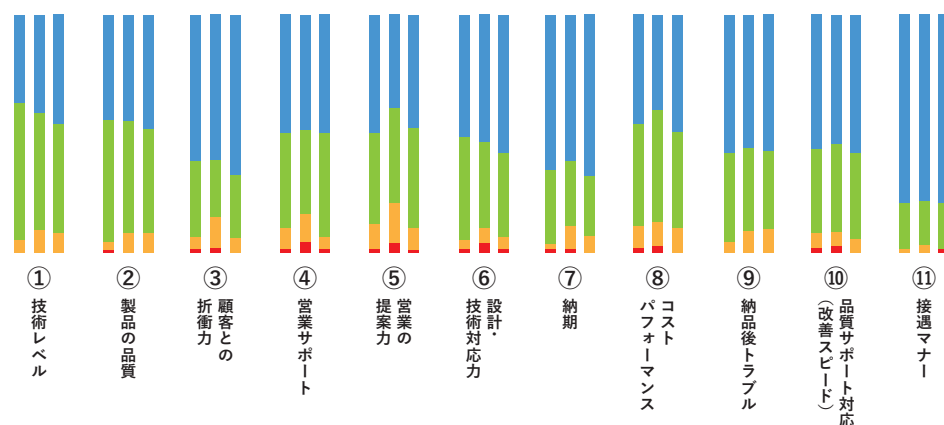
### アンケートによる評価

毎年、お客様よりアンケートを通じて貴重なご意見・ご評価をいただいております。ご要望やご指摘事項については、各事業部における改善課題として整理し、継続的なフォローと改善活動に繋げています。アンケート項目については、事業部ごとの内容見直しに関するご意見も頂戴しておりますが、確認事項の共通性や継続的な評価推移を重視し、現行項目をベ-

スに運用しております。また、一部のお客様からは特定事業部への高い評価もいただいております。全体として期待値の向上とともに評価改善の傾向が見られています。今後も全社的な品質・サービス向上に努め、より高いご評価をいただけるよう取り組んでまいります。アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

《お客様アンケート 回答割合比較》※グラフ左より2023・2024・2025年度

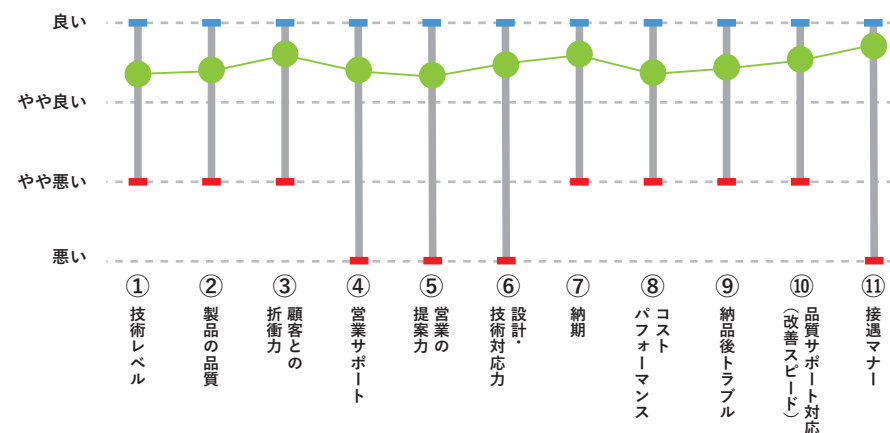
■悪い ■やや悪い ■やや良い ■良い



《重要顧客から弊社事業部への評価表》

| 項目      | 2023年 |    |    | 2024年 |    |    | 2025年 |    |    |
|---------|-------|----|----|-------|----|----|-------|----|----|
|         | 悪い    | 普通 | 良い | 悪い    | 普通 | 良い | 悪い    | 普通 | 良い |
| 品質      | ■     | ■  |    | ■     | ■  |    | ■     | ■  | ■  |
| 納期      | ■     | ■  | ■  | ■     | ■  | ■  | ■     | ■  | ■  |
| 価格・サービス | ■     | ■  | ■  | ■     | ■  | ■  | ■     | ■  | ■  |
| 技術      | ■     | ■  |    | ■     | ■  |    | ■     | ■  |    |
| サポート    | ■     | ■  |    | ■     | ■  | ■  | ■     | ■  | ■  |
| 総合      | ■     | ■  | ■  | ■     | ■  | ■  | ■     | ■  | ■  |

《お客様アンケートの評価分布》



### お客様の声の振返り

#### ご指示/ご指摘

- 初期流動段階における完成度upへの取り組みに期待しています。
- 技術面での原価低減に向けた提案と取り組みへの更なる期待をしています。
- 試験機不備のないようにお願いします。
- 製品の機能性向上に期待しています。
- いろいろとご提案を頂けますと拡販の幅が広がると思います。
- 以前に比べ、回答が遅くなっているように思います。
- 営業の社員教育を今まで以上に注力されてはと感じています

#### 肯定的

- アイデアの提案を行っている。
- イレギュラー案件への誠実な対応を実施している。
- 立ち合い評価や実験で拝見するモノづくりの姿勢が大変丁寧で安心感があります。
- 板金・機械加工の品質が大変良く非常に満足です。
- 試作品レベルであれば、不良率が悪いとは思えないレベル。
- 量産品移管について、よくご対応いただけていると思っています。
- 訪問した際、きちんと挨拶をいただいております。

## 地域社会の声

## 当社創業50周年に寄せられたメッセージ

由布市長 相馬 尊重 様



株式会社デンケン様が創業50周年という輝かしい節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。誠におめでとうございます。

創業以来半世紀にわたり優れた電子技術のノウハウにより、高品質・高付加価値の製品を製造され、近年はさらに幅広い分野で地域の産業と雇用を創出されてこられた歩みに衷心より敬意を表します。

由布市は御社の50年の歩みに比べればまだ道半ばではございますが、昨年20周年の節目の年を迎えることが出来ました。

平成17年10月1日に、挾間町・庄内町・湯布院町の3町の合併により新しい市として産声をあげ、由布市誕生以来、「融和」・「協働」・「発展」を基本理念として掲げてまいりました。

そして、どのような時も市民の皆様と一体となり、何よりも「安全・安心に暮らせる市民生活を第一に」という強い決意のもと、現在も取り組んでおります。

また、「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりをめざす中で、国内外から多くの人々を惹きつける魅力あふれる市へと成長しております。しかし、何よりも豊かな温泉資源や美しい

景色、力強い農業、そして地域を愛し、支え合う「人」の力こそが、本市の最大の財産でございます。

この20年という歳月は、大きな震災やコロナウィルスの拡大など、決して平坦な道のりばかりではございませんでしたが、困難に直面するたびに、市民の皆様や地域を支える企業の皆様と手を取り合い、「協働」の精神で乗り越えることが出来たことに、深く感謝申し上げます。

また御社におかれましては、本市と平成30年に包括連携協定を結んでいただき、各種活動に対するご協力や多額なご寄付等、市の諸問題解決のため、ご支援をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

結びに、今後もこの50年間で培った知識と経験を活かし、石井代表取締役社長をはじめ役員・社員の皆様の、今後一層のご活躍をお祈り申し上げますとともに、株式会社デンケン様の益々の発展をご祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

## 事業拠点の環境・地域貢献

## 計画的な設備更新による省エネと、地域防災への貢献を両立

エレクトロニクス事業部 事業推進部 経営管理課 末次 信也

## 【環境活動への取り組み】

エレクトロニクス事業部は半導体に関する業務を行っており、半導体の回路設計、試作/量産組立、評価、解析と中小企業では幅広いサービスを展開しております。大分県杵築市(守江工場)、愛知県刈谷市(中部センター)に拠点を構え、近隣企業含めたお客様からの業務を受託しております。

守江工場に於きましては、24時間稼働の半導体工場となっており、工場ファシリティも稼働を常に行っていることから全社使用電力における守江工場の割合が約8割となっており使用電力削減を目標とし環境活動を行っております。



## 主な取り組み内容として

## 1. 工場ファシリティ機器を省エネタイプへ更新

守江工場に設置している空調機が約40台、チラー8台、コンプレッサー6台あり、毎年計画的に更新を実施しております。

## 2. 使用電力の見える化

効果的な節電を行う事を目的としエリア別、工程別の使用電力量を見える化する為に各ブレーカーに電力モニターを設置、集中管理システムを構築し、各部署にて節電実施に取り組む事を26年度計画としております。

## 【地域社会への貢献】

また、守江工場が杵築市の避難場所に指定されており、地域に避難指示が発令された場合は避難所としての機能を地域純民へ提供しております。市の避難訓練など地域と合同で実施する事で地域社会に貢献できる工場運営を行っております。

## ■ 表彰・外部評価

|              |                                          |
|--------------|------------------------------------------|
| 2019年 10月28日 | 全国みどりの工場大賞 日本緑化センター会長奨励賞／本社工場            |
| 2024年 10月24日 | 優良事業所県表彰(交通安全)／本社工場                      |
| 2026年 2月26日  | 令和7年度 由布市生涯学習・社会教育振興大会 社会教育功労者表彰         |
| 2026年 3月2日   | 令和7年度「安全の見える化」【腰痛予防対策部門】最優秀賞／(株)アイ・エス・アイ |

## ■ 認定・選定

|              |                      |
|--------------|----------------------|
| 2017年 12月22日 | 地域未来牽引企業             |
| 2024年 3月22日  | しごと子育てサポート企業         |
| 2025年 2月1日   | DX認定事業者              |
| 2025年 3月21日  | 事業継続力強化計画 認定 (P37参照) |
| 2025年 10月1日  | おおいたグリーン事業者認定        |
| 2026年 1月30日  | スポーツエールカンパニー2026認定   |
| 2026年 3月9日   | 健康経営優良法人2026 (P30参照) |



## ■ 取組宣言

|             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 2021年 1月18日 | 再エネ100宣言 RE Action (P16参照) |
| 2023年 6月20日 | パートナーシップ構築宣言               |

国際標準規格の  
取得状況

| 工場     | 事業部             | 品質<br>マネジメント<br>システム<br>ISO 9001<br> | 環境<br>マネジメント<br>システム<br>ISO 14001<br> | (医療機器)品質<br>マネジメント<br>システム<br>ISO 13485<br> | 試験所認定<br>マネジメント<br>システム<br>ISO 17025<br> | 情報セキュリティ<br>マネジメント<br>システム<br>ISO 27001<br> |
|--------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 本社工場   | システム・ソリューション事業部 | ○                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | -                                                                                                                           | -                                                                                                                                |
|        | イノベーションセンター     | ○                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | -                                                                                                                           | -                                                                                                                                |
|        | 管理本部            | ○                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | -                                                                                                                           | -                                                                                                                                |
|        | 品質保証部           | ○                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | -                                                                                                                           | -                                                                                                                                |
|        | GX事業部           | ○                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | -                                                                                                                           | ○ 新電力支援<br>ビジネスグループ                                                                                                              |
|        | パーキング事業部        | ○                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | -                                                                                                                           | -                                                                                                                                |
| 高崎工場   | DDX推進室          | ○                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | -                                                                                                                           | -                                                                                                                                |
|        | 管理本部            | ○                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | -                                                                                                                           | -                                                                                                                                |
| 守江工場   | GX事業部           | ○                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | -                                                                                                                           | -                                                                                                                                |
|        | エレクトロニクス事業部     | ○                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | ○ ※1 守江工場試験場                                                                                                                | -                                                                                                                                |
| 中部センター | EMC試験部          | -                                                                                                                       | -                                                                                                                        | -                                                                                                                              | ○ ※2                                                                                                                        | -                                                                                                                                |
| 南杵築工場  | ヘルスケア事業部        | -                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | ○                                                                                                                              | -                                                                                                                           | -                                                                                                                                |
| 八坂工場   |                 | -                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | -                                                                                                                           | -                                                                                                                                |
| 鬼崎工場   | メタル・ソリューション事業部  | ○                                                                                                                       | ○                                                                                                                        | -                                                                                                                              | -                                                                                                                           | -                                                                                                                                |

## おわりに Message from the Vice President

## 持続可能な未来に向けて

本レポートを通じて、当社のサステナビリティへの取り組みの進捗と考え方をご理解いただけましたら幸いです。

創業50周年という節目を経て、私たちは「次の50年」に向けた取り組みを着実に前進させてまいりました。GXの推進による環境負荷低減、DXを通じた業務改革と生産性向上、多様な人材が活躍できる組織づくり、そして地域社会との共生。これらの重点テーマにおいて、具体的な成果とともに新たな課題も明らかになっています。

とりわけ、データ活用の高度化や製造プロセスの最適化は、競争力の強化と持続可能性の両立に向けた重要な基盤として、着実に進展しています。一方で、社会や事業環境の変化は一層スピードを増しており、私たちにはより柔軟で実効性のある取り組みが求められています。

こうした認識のもと、当社はサステナビリティを経営の中核に据え、事業を通じた社会課題の解決に一層取り組んでまいります。また、取り組みの質と透明性を高めるため、ステークホルダーの皆さまとの対話をこれまで以上に重視してまいります。

持続可能な社会の実現に向けた歩みは、決して一朝一夕に成し遂げられるものではありません。だからこそ、一つひとつの取り組みを着実に積み重ね、信頼される企業であり続けることを目指してまいります。

今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

株式会社デンケン  
取締役副社長  
環境管理統括責任者

本田 太郎

## 【アンケート】

サステナビリティレポートをご覧いただき、誠にありがとうございます。  
お忙しいところ恐縮ですが、  
当社ではサービス向上のためアンケート調査を実施しております。  
右記リンクよりアンケートにご協力いただけますと幸いです。







SUSTAINABILITY  
REPORT  
2026



<https://www.dkn.co.jp/environment/>

